

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	現代の国語	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 年普通科
使用教科書	「高等学校 現代の国語」 (第一学習社)				
補助教材等	「ネクスト常用漢字」 (第一学習社) 「プログレス現代文総演習」 (いいづな書店)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会での課題設定及び課題解決につながる国語の知識や技能を身に付けて適切に使っている。	多様な他者と共に高め合い、認め合いながら伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、自分の考えを相手にわかりやすく、筋道を立てて伝え、言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとしている。
主な評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	文章の構成を正確に押さえよう	「『本当の自分』幻想」(平野啓一郎)	6	・主題に至る論の構造を把握し、主題に説得力を持たせるための論の展開について考える	・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している(a) ・文章の種類を踏まえて、内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している(b)
5	対比関係を踏まえて論旨を読み取ろう	「水の東西」(山崎正和)	7	・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している(a) ・文章の論理展開について的確に捉え、要点を把握している(b)
6	論理分析 「対比」「具体と抽象」	「日本語は世界をこのようにとらえる」(小浜逸郎)	7	・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確にとらえ、要旨を把握する方法を学ぶ。	・一般的主張は抽象的になりやすく具体的な例が必要になることについて理解している。(a) ・認識や思考を支える言葉の価値について理解を深めようとしている(c)
7 8	情報を整理して相手にわかりやすく伝えよう	「法律の改正に関わる文章を読み比べる」	7	・改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる	・実社会において表現するために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の用法を理解し、話の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている(a) ・自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考え、表現の仕方を工夫している(b) ・複数の文章から読み取った情報をまとめて、聞き手が理解しやすいように伝えようとしている(c)
9	抽象的な概念を具体化してわかりやすく説明しよう	「『文化』としての科学」(池内了)	7	・筆者が主張する科学と技術の違いを対比的に整理し、現状における科学と技術の関係を理解する	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。(a) ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら、内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めている(b) ・文章から筆者の主張を読み取り、その主張に対する自分の考えをまとめ、表現を工夫して説明しようとしている(c)
10	合意形成可能な話合いをしよう	「現代の『世論操作』」(林香里)	7	・情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ	・話し言葉の特徴を踏まえ、敬意と親しさに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。(a) ・情報の信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている(a) ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら話合いの目的や状況に応じて、話合いの仕方や結論の出し方を工夫している(b)

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
11	論理分析 「事実と意見」「推論」	「AIは哲学で きるか」 (森岡正博)	8	・推論とは、ある事実を前提として一つの結論を導き出すことをいい、論理的に考える際に特に重要となる思考方法である。代表的なものに、演繹法と帰納法がある。	・論理的に考える際「推論」が重要な思考方法であることについて理解している(a) ・文章の種類を踏まえて、内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している(b)
12	論理構成を 的確に捉え よう	「ものとこと ば」(鈴木孝 夫)	7	・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する言語の意味を理解する・	・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。(a) ・認識や思考を支える言葉の価値について理解を深めようとしている(c)
1	論理分析 「主張と根 拠」	「デザインの 本意」(原研哉)	6	・「論理的である」ということは、「根拠に基づいた主張がされている」と言い換えることができる。相手を説得したり納得させたりするためには、妥当な根拠によって主張が支えられていることが必要である。	・論理的な主張は妥当な根拠に支えられていることについて理解している。(a) ・認識や思考を支える言葉の価値について理解を深めようとしている(c)
2 3	情報を整理 して相手に わかりやす く伝えよう	「学校新聞の 記事内容を検 討する」	8	・与えられた資料と会話文を関連づけながら、課題に即して必要な情報を読み取り活用する	・実社会において表現するために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の用法を理解し、話の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている(a) ・自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考え、表現の仕方を工夫している(b) ・複数の文章から読み取った情報をまとめて、聞き手が理解しやすいように伝えようとしている(c)

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	言語文化	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 年普通科
使用教科書	「高等学校 言語文化」 (第一学習社)				
補助教材等	「ミクサ古典文法」(数研出版) 「プログレス古典総演習」(いいいづな書店)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の言語文化に対する理解を深めるため、知識や技能を身に付けて適切に使っていいる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
主な評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	古文入門	「児のそら寝」「絵仏師良秀（宇治拾遺物語）	6	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。	・古文読解に必要な基礎知識について理解している(a) ・内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している(b)
5	漢文入門	「訓読に親しむ」	7	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の使い方、助字のはたき、、再読文字を習得する。	・漢文訓読のための基礎知識を理解している(a) ・漢文の基本構造を的確に捉え、要点を把握している(b)
6	歌物語	「芥川」「東下り」（伊勢物語）	7	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。	・物語の展開を把握し、和歌の役割を理解している。(a) ・認識や思考を支える言葉の価値について理解を深めようとしている(c)
7 8	近現代の詩歌	「自分の感受性くらい」「こころの帆」	7	・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取る。 ・わが国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を的確に捉えている。(a) ・表現の仕方、表現の特色について理解している(b) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(c)
9	隨筆	「長月ばかり」「中納言参りたまひて」（枕草子）	7	・自由に記述された隨筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。	・古文解釈に必要な文語のきまりを理解し、的確な内容把握ができる。(a) ・古文の世界に親しむために、作品の歴史的、文化的背景などを理解している。(a) ・敬語の表現を理解している。(b)
10	故事成語	「漁父之利」「狐借虎威」（戦国策）	7	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	・訓読のきまりに従い書き下し文にすることができます。(a) ・文化的特徴などを理解し、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(b) ・文章から筆者の主張を読み取り、その主張に対する自分の考えをまとめ、表現を工夫して説明しようとしている(c)

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教 材	時 数	学習内容	評価規準
11	日記	「門出」「帰京」 (土佐日記)	8	・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握している。(a) ・古典特有の表現などについて理解している。(b)
12	唐詩	「静夜思」「春望」 (唐詩の世界)	7	・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	・古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取り理解している。(a) ・表現や技法を理解した上で的確に鑑賞している。(b)
1	軍記物語	「木曽の最期」 (平家物語)	6	・合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握している。(a) ・語り物の特色が表れていると思う描写や表現を指摘できる。(c)
2 3	思想	「論語」	8	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を的確に把握している。(a) ・訓読のきまりに従って書き下し文にしている。(b) ・複数の文章から読み取った要旨をまとめて、内容を把握している。(c)

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	言語文化	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 年普通科
使用教科書	「高等学校 言語文化」 (第一学習社)				
補助教材等	「ミクサ古典文法」(数研出版) 「プログレス古典総演習」(いいいづな書店)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の言語文化に対する理解を深めるため、知識や技能を身に付けて適切に使っていいる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
主な評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	古文入門	「児のそら寝」「絵仏師良秀（宇治拾遺物語）	6	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。	・古文読解に必要な基礎知識について理解している(a) ・内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している(b)
5	漢文入門	「訓読に親しむ」	7	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の使い方、助字のはたき、、再読文字を習得する。	・漢文訓読のための基礎知識を理解している(a) ・漢文の基本構造を的確に捉え、要点を把握している(b)
6	歌物語	「芥川」「東下り」（伊勢物語）	7	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。	・物語の展開を把握し、和歌の役割を理解している。(a) ・認識や思考を支える言葉の価値について理解を深めようとしている(c)
7 8	近現代の詩歌	「自分の感受性くらい」「こころの帆」	7	・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取る。 ・わが国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を的確に捉えている。(a) ・表現の仕方、表現の特色について理解している(b) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(c)
9	隨筆	「長月ばかり」「中納言参りたまひて」（枕草子）	7	・自由に記述された隨筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。	・古文解釈に必要な文語のきまりを理解し、的確な内容把握ができる。(a) ・古文の世界に親しむために、作品の歴史的、文化的背景などを理解している。(a) ・敬語の表現を理解している。(b)
10	故事成語	「漁父之利」「狐借虎威」（戦国策）	7	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	・訓読のきまりに従い書き下し文にすることができます。(a) ・文化的特徴などを理解し、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(b) ・文章から筆者の主張を読み取り、その主張に対する自分の考えをまとめ、表現を工夫して説明しようとしている(c)

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教 材	時 数	学習内容	評価規準
11	日記	「門出」「帰京」 (土佐日記)	8	・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握している。(a) ・古典特有の表現などについて理解している。(b)
12	唐詩	「静夜思」「春望」 (唐詩の世界)	7	・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	・古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取り理解している。(a) ・表現や技法を理解した上で的確に鑑賞している。(b)
1	軍記物語	「木曽の最期」 (平家物語)	6	・合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握している。(a) ・語り物の特色が表れていると思う描写や表現を指摘できる。(c)
2 3	思想	「論語」	8	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を的確に把握している。(a) ・訓読のきまりに従って書き下し文にしている。(b) ・複数の文章から読み取った要旨をまとめて、内容を把握している。(c)

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	論理国語	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2年普通科
使用教科書	「高等学校 論理国語」 (第一学習社)				
補助教材等	「常用漢字ダブルクリア四訂版」 (尚文出版) 「新成現代文」 (尚文出版)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他社との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他社や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけを行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	論証したり学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語彙を豊かにし、段落の構造や文章の構造などを理解し、使用できている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教 材	時 数	学習 内 容	評 価 規 準
4	評論	天然知能として生きる(郡司ペギオ幸夫)	6	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が定義する「天然知能」について把握し、これからの人間の知性のあり方について考えを深める。 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。(b) 個別の情報をどのように一般化しているかを捉え、学習課題に沿って積極的に説明しようとしている。(c)
5	評論	日本人の「自然」(木村敏)	7	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的につかみ、筆者の問題意識や執筆意図に目を向ける。 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章から筆者の問題意識や執筆意図を読み取り、自分の考えを論述したり発表したりする。(b) 「自然」という言葉について、それぞれの例における意味内容の違いを粘り強く説明しようとしている。(c)
6	評論	手の変幻(清岡卓行)	7	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。(a) 学習課題に沿って積極的に慣用表現について調べたり、表現効果について考えたりすることで、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。(c)
7 8	評論	働くアリに意義がある(長谷川英祐)	7	<ul style="list-style-type: none"> アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 積極的に筆者の主張をふまえ、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する本文の論理の展開を粘り強く捉え、要旨をまとめようとしている。(b) 実験をふまえて結論に至った論理の展開を表形式で積極的にまとめようとしている。(c) 学習課題に沿って積極的に慣用表現について調べたり、表現効果について考えたりすることで、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。(a)
9	評論	なぜ多様性が必要か(福岡伸一)	7	<ul style="list-style-type: none"> 動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性の必要性について述べた本文を粘り強く読み、学習課題に沿って内容の理解を深めようとしている。(c) 読書の意義と効用を理解する。(a) 積極的に筆者の主張を評価し、立場の異なる読み手を説得するために表現の仕方を工夫して説明しようとしている。(c)

※評価の観点: (a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教 材	時 数	学習内 容	評 価 規 準
10	評論	言語が見せる世界(野矢茂樹)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・具体(例示)と抽象(意見)の関係を整理して論理構成を把握し、言語と認識の関係を理解する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にするはたらきがあることを理解する。(a) ・学習課題に沿って積極的に本文中の語句や表現について考えることで、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。(c)
11	評論	身体の個別性(浜田寿美男)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアジェの「自己中心性」や河上肇の「利他性」と比較しながら、筆者が指摘する「本源的自己中心性」を理解する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間は本源的な自己中心性にとらわれていることを指摘した評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理展開や要旨を捉えようとしている。(b) ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。(a)
12	評論	リスク社会とは何か(大澤真幸)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク社会の特徴を捉え、そのような社会での人間のありようについて考える。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 ・情報と情報との関係について理解を深め、情報を階層化して整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に沿って「リスク」について整理し、積極的に説明しようとしている。(c) ・本文を粘り強く読み、学習課題に沿って本文の構成を捉えようとしている。(c) ・リスク社会について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。(b) ・自分の考えが的確に伝わる文章になるよう工夫する。(b)
1	評論	「である」と「する」とこと(丸山真男)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例と主張との関係、段落相互の関係を把握し、民主主義社会のあり方について理解を深める。 ・学習課題に沿って例を探しながら「『である』価値と『する』価値の倒錯」について考え、どうなれば民主化が進んだ状態と言えるのか、考えたことを積極的に発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。(c) ・民主主義社会のあり方について述べた評論を粘り強く読み、学習課題に沿って本文の構成や、要旨を捉えようとしている。(b)
2 3	評論	現代日本の開花(夏目漱石)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の開化と日本の開化との違いを整理しながら筆者の主張を捉え、自分に照らして考えを深める。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治四十四年の講演の記録に基づく文章を粘り強く読み、本文の構成を捉えようとしている。(c) ・粘り強く学習課題に取り組み、本文の内容について理解を深めようとしている。(a)

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	言語文化	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2年商業科
使用教科書	「高等学校 言語文化」 (第一学習社)				
補助教材等	「3 step 基本 古典 新装版」(尚文出版)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の言語文化に対する理解を深めるため、知識や技能を身に付けて適切に使っていいる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	古文入門	「児のそら寝」「絵仏師良秀（宇治拾遺物語）	6	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。	・古文読解に必要な基礎知識について理解している(a) ・内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している(b)
5	漢文入門	「訓読に親しむ」	7	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の使い方、助字のはたき、、再読文字を習得する。	・漢文訓読のための基礎知識を理解している(a) ・漢文の基本構造を的確に捉え、要点を把握している(b)
6	歌物語	「芥川」「東下り」（伊勢物語）	7	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。	・物語の展開を把握し、和歌の役割を理解している。(a) ・認識や思考を支える言葉の価値について理解を深めようとしている(c)
7 8	近現代の詩歌	「自分の感受性くらい」「こころの帆」	7	・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取る。 ・わが国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を的確に捉えている。(a) ・表現の仕方、表現の特色について理解している(b) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(c)
9	隨筆	「長月ばかり」「中納言参りたまひて」（枕草子）	7	・自由に記述された隨筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。	・古文解釈に必要な文語のきまりを理解し、的確な内容把握ができる。(a) ・古文の世界に親しむために、作品の歴史的、文化的背景などを理解している。(a) ・敬語の表現を理解している。(b)
10	故事成語	「漁父之利」「狐借虎威」（戦国策）	7	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	・訓読のきまりに従い書き下し文にすることができます。(a) ・文化的特徴などを理解し、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(b) ・文章から筆者の主張を読み取り、その主張に対する自分の考えをまとめ、表現を工夫して説明しようとしている(c)

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教 材	時 数	学習内容	評価規準
11	日記	「門出」「帰京」 (土佐日記)	8	・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握している。(a) ・古典特有の表現などについて理解している。(b)
12	唐詩	「静夜思」「春望」 (唐詩の世界)	7	・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	・古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取り理解している。(a) ・表現や技法を理解した上で的確に鑑賞している。(b)
1	軍記物語	「木曽の最期」 (平家物語)	6	・合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握している。(a) ・語り物の特色が表れていると思う描写や表現を指摘できる。(c)
2 3	思想	「論語」	8	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を的確に把握している。(a) ・訓読のきまりに従って書き下し文にしている。(b) ・複数の文章から読み取った要旨をまとめて、内容を把握している。(c)

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	古典探究	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3年普通科文系
使用教科書	「高等学校 古典探究-古文編-」(第一学習社)「高等学校 古典探究-漢文編-」				
補助教材等	「体系古典文法・九訂版」(数研出版) 「新名説漢文ノート」(尚文出版) 「みるみる覚える古文単語300+敬語30」(いいづな書店) 「3 step 錬成古典」(尚文出版)				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働きかせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要な「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けていると共に、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させている。
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教 材	時 数	学習 内 容	評 価 規 準
4	物語(一)	大和物語「苔の衣」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える 	<ul style="list-style-type: none"> ・文語の決まりについて理解を深める。(a) ・学習の見通しをもって歌物語を読み、和歌のよまれた事情が記述された歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。(c)
5	物語(二)	大鏡「弓争い」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。 ・今までの学習を生かして歴史物語を読み、作者の意図をふまえて内容を的確に捉え、構成や展開について積極的に評価しようとしている。 ・内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。(b) ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。(a)
6	項羽と劉邦	史記「鴻門の会」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。 ・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・作者の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。(c)
7 8	諸家の思想	孟子「性善」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』を読み、古代中国思想について理解する。 ・思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。(b) ・積極的に『孟子』を読み、孟子が政治に「仁義」を求める理由と、彼の「人性」に対する考え方を説明しようとしている。(b) ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・思想を述べた文章の特徴について理解を深める。(b)
9	物語(四)	源氏物語「夕顔の死」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ・主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。(b) ・内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。(c)

※評価の観点: (a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
10	評論(二)	玉勝間「兼好法師が詞のあげつらひ」(本居宣長)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・『徒然草』の一節を批判する作者の論理を理解し、古文を評価する態度や手法について考えを深める。 ・文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文語のきまりについて理解を深める。(a) ・学習課題に沿って作者の主張と論理を本文の叙述に即して理解し、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。(c)
11	諸家の文章(二)	売柑者言(劉基)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・論説という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開を的確に捉える。 ・作者の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に論説を読んで、「柑」を売る者の主張を整理するとともに、作者が「黙然無以応」となった理由を説明しようとしている。(a) ・作者は「柑」の話を通して何を述べようとしたのかを、進んで考えようとしている。(b)
12	古代の史話	十八史略「背水之陣」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓読のきまりについて理解を深める。(a) ・積極的に史伝を読んで韓信の作戦を整理し、現代における「背水の陣」の意味との関連性を説明しようとしている。(b)
1	隨筆(三)	枕草子「雪のいと高う降りたるを」(清少納言)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・隨筆に表れたものの見方・考え方・美意識を理解し、積極的に自分の考え方を伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもって『枕草子』を読み、類集的章段・隨想的章段・日記的章段があるという作品の特徴について、理解を深めようとしている。(b)
2 3	自宅研修		8		

令和 6 年度 国 語 科 シラバス

科 目	文学国語	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年全員
使用教科書	「高等学校 文学国語」 (第一学習社)				
補助教材等	「LT 現代文」(浜島書店)「基礎からはじめる国語の表現力トレーニングノート」(大修館書店)」				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようする。【知識及び技能】
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりするようする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高めている。	言葉を通してものの見方、感じ方、考え方を深めながら言葉の持つ価値への認識を深めようとしている。読書に親しむことで自己を向上させ、自分の思いや考えを広げている。
主な評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・作成したスライド、レジュメの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの内容	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月 単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	近代の小説 (一) 「山月記」 (中島敦) 「檸檬」 (梶井基次郎)	12	・表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を考える。 ・「私」の心の動きを作品中の表現に基づいてたどり、「檸檬」が「私」に及ぼした影響を考える。	・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する(a) ・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。(c)
5	隨想(一) 近代の詩	11	・フェルメールの絵画について述べられた対談の文章と比較して、文体の特徴や効果について考察する方法を学ぶ。 ・内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする(a) ・二つの文章の違いを説明できる(b) ・象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、込められた心情などを理解しようとしている(b)
6	現代の小説 (二) 「棒」 (安部公房)	12	・変身と対話にこめられた寓意について把握し、小説が提起する問題について考える。	・作品に関連のある事項について調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ(b) ・積極的に考察し、作品に対する自分の考えを説明しようとしている(c)
7 8	戦争と文学 (一)(二) 「バグダッドの靴磨き」 (米原万里) 「夏の花」 (原民樹)	11	・時系列に沿って登場人物間の関係や心情を粘り強く読み取り、「僕」の発言の背景を理解しようとしている。 ・小説の表現や描写の特徴とその効果について、積極的に理解を深めようとしている。	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉える方法を学ぶとともに、作品の解釈を踏まえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める姿勢を養う。(b)
	近代の小説 (二) 「こころ」 (夏目漱石)	12	・物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかむ。 ・指定された場面を、本文とは異なる視点から書き換える活動に積極的に取り組み、解釈を深めようとしている。	・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。(a) ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・物語の展開と出来事を整理しながら、「私」と「K」それぞれの心情をつかむ。(b)
10	近代の小説 (一)(二) 「葉桜と魔笛」 (太宰治) 「枯野抄」 (芥川龍之介)	12	・小説の展開において、「私」の語りの特徴がもたらしている効果を把握しながら読む。 ・師匠である芭蕉の臨終に弟子たちがそれぞれに抱く心情を把握し、人生や他者に対する考察を深める。	・作品の解釈を踏まえて、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める姿勢を養う。(c) ・芭蕉の弟子たちの共感できる部分、共感できない部分について積極的に考えをまとめようとしている。

				(b)
--	--	--	--	-----

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
11	随想(二) 製作をする	「もしも、詩があつたら」 (アーサー・ビナード) 「テーマを決めて短歌・俳句を作る」	12	・小説の展開において、「私」の語りの特徴がもたらしている効果を把握しながら読む。 ・教科書に示された短歌・俳句から文体や表現の技法を参考にして、積極的に短歌や俳句を創作しようとしている。	・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特色などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに、解釈の多様性について考察する姿勢を養う。(a) ・他の生徒が創作した短歌・俳句を、積極的に批評しようとしている。(c)
12	現代の小説 (二)	「骰子の七の目」 (恩田陸)	7	・「私」によって語られる作中世界の異常さを意識しながら、小説の批判精神を読み取る。	・読書の意義と効用を理解する。(a) ・内容や構成、展開を粘り強く読み取り、小説の批評精神を捉えようとしている。(b)
1	近代の詩	「永訣の朝」 (宮沢賢治)	6	・繰り返し音読し、積極的に詩の構成やリズムを理解する。 ・象徴的な表現を読み取り、進んで表現上の効果や作品世界、そこに込められた心情などを味わう。	・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。(a) ・我が国の言語文化の特質について理解を深める。(a)
2 3	(自宅研修)		10		

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	古典探究	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3年普通科文系
使用教科書	「高等学校 古典探究-古文編-」(第一学習社)	「高等学校 古典探究-漢文編-」			
補助教材等	「体系古典文法・九訂版」(数研出版)	「新名説漢文ノート」(尚文出版)			

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働きかせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 社会生活を円滑に営む上で必要な「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けていると共に、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させている。
主な評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教 材	時 数	学習 内 容	評 価 規 準
4	物語(一)	大和物語「苔の衣」	6	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌のよまれた事情を語る、散文性や叙事性の強い歌物語を読んで、古典の世界の多様性を知る。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える 	<ul style="list-style-type: none"> ・文語の決まりについて理解を深める。(a) ・学習の見通しをもって歌物語を読み、和歌のよまれた事情が記述された歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。(c)
5	物語(二)	大鏡「弓争い」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。 ・今までの学習を生かして歴史物語を読み、作者の意図をふまえて内容を的確に捉え、構成や展開について積極的に評価しようとしている。 ・内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。(b) ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。(a)
6	項羽と劉邦	史記「鴻門の会」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。 ・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・作者の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 ・史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。(c)
7 8	諸家の思想	孟子「性善」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』を読み、古代中国思想について理解する。 ・思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。(b) ・積極的に『孟子』を読み、孟子が政治に「仁義」を求める理由と、彼の「人性」に対する考え方を説明しようとしている。(b) ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。(a) ・思想を述べた文章の特徴について理解を深める。(b)
9	物語(四)	源氏物語「夕顔の死」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ・主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。(b) ・内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。(c)

※評価の観点: (a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
10	評論(二)	玉勝間「兼好法師が詞のあげつらひ」(本居宣長)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・『徒然草』の一節を批判する作者の論理を理解し、古文を評価する態度や手法について考えを深める。 ・文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文語のきまりについて理解を深める。(a) ・学習課題に沿って作者の主張と論理を本文の叙述に即して理解し、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。(c)
11	諸家の文章(二)	売柑者言(劉基)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・論説という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開を的確に捉える。 ・作者の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に論説を読んで、「柑」を売る者の主張を整理するとともに、作者が「黙然無以応」となった理由を説明しようとしている。(a) ・作者は「柑」の話を通して何を述べようとしたのかを、進んで考えようとしている。(b)
12	古代の史話	十八史略「背水之陣」	7	<ul style="list-style-type: none"> ・史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考え方や目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓読のきまりについて理解を深める。(a) ・積極的に史伝を読んで韓信の作戦を整理し、現代における「背水の陣」の意味との関連性を説明しようとしている。(b)
1	隨筆(三)	枕草子「雪のいと高う降りたるを」(清少納言)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・隨筆に表れたものの見方・考え方・美意識を理解し、積極的に自分の考え方を伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもって『枕草子』を読み、類集的章段・隨想的章段・日記的章段があるという作品の特徴について、理解を深めようとしている。(b)
2 3	自宅研修		8		

科 目	歴史総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1年普通科
使用教科書	明解 歴史総合	(帝国書院)			
補助教材等	「明解歴史総合図説シンフォニア最新版」 「明解歴史総合ノート」	(帝国書院)			

1 学習の到達目標

近現代における社会的事象の歴史的見地・思考からグローバル化する国際社会に適応できる能力を身に着けることを目指す。

- (1) 図本の歴史と世界の歴史の流れを学習し、日本と世界の関連性を把握することによって日本を広く相互的視野から捉え、現代的諸課題の形成にかかわる歴史を理解する。
- (2) 現代の歴史の変化にかかわる意義や特色を現在とのつながりを意識させ、多面的・多角的に考察し、課題の解決への道筋を考えさせる。
- (3) りよい社会の実現のため、主体的に問題解決への考えを養うとともに、日本の歴史の理解と他国の歴史や文化を理解・尊重する態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・歴史総合は近現代の歴史を主に学ぶ教科であるため、それ以前の世界史の概要をある程度把握しているとより良い学びになると思います。
- ・成績を決定するうえで、考査が重要であるためコツコツとワーク等を進めておくのがすごく重要になります。
- ・普段から歴史的な視点から物事をとらえられるようにしてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	授業の内容を理解できているか。 歴史の中で重要な事柄を把握できているか	各単元における学習課題を授業内容に即し、判断・表現できるか。	授業内での問い合わせに積極的姿勢で取り組めるか。 ノートやワークブックがきちんと書かれているか。
主な評価方法	・定期テスト	・定期テストの思考・判断・表現に関する問題 ・授業内での取り組み	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	時数	学習内容	評価規準
4	各地域の諸文明	12	・近現代以前の諸地域の歴史の流れを地域ごとに把握する	・諸地域の主要な国家を把握できているか (a)
	1部 歴 史の扉 2部 歴 代化と私たち		・歴史の学び方・資料の読み取方・歴史叙述の特徴を学ぶ 1章 江戸時代の日本と結びつく世界 江戸時代における日本と世界のつながりと清王朝を中心とするアジア社会とイスラームとヨーロッパの拡大について	・資料の読み取り方・叙述の特徴を理解できるか (a) (b) ・江戸時代の日本の世界とのつながりやアジアとヨーロッパの関係を理解できるか (a) ・アジアとヨーロッパは何を通じて結びついていたか考察できるか (b)
6	2部 近代化と私たち	12	1章 欧米諸国における近代化 ・ヨーロッパにおける市民革命による民主主義国家の誕生と産業革命によるイギリスの繁栄と国際分業体制の確立について	・民主主義革命と国民意識の芽生えや産業革命とその影響を理解できるか (a)
			2章 近代化の進展と国民国家の形成 1800年代のヨーロッパにおけるナショナリズムの台頭による、ドイツ・イタリアの統一・クリミア戦争を発端とするロシアを中心とした東方問題・アメリカの拡大と帝国主義の成立について	・イギリスとアメリカ・フランスの革命を比べ考察する (b) ・各国の近代化の推進とナショナリズムから起こる帝国主義について理解できるか (a) ・なぜナショナリズムが台頭したか考察できるか (b)
7			3章 アジア諸国の動搖と日本の開国 オスマン帝国の衰退に伴うイスラーム世界の改革と帝国主義によるヨーロッパ勢力のアジアの植民地化と開国に向けての江戸幕府の動搖について	・オスマン衰退に伴うイスラーム世界の改革とヨーロッパ勢力のアジアの植民地化に伴う日本の動搖について理解できるか (a) ・植民地化に対する神と日本の対応を考察する (b)

8 9	2部 近代化と私たち 3部 国際秩序の変化や大衆化と私達	10	<p>5章 ■ 代化が進む日本と東アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国後の日本の近代化への道のりと日清・日露戦争による対外進出や不平等条約の改正を目指す日本の動きについて。 <p>1章 ■ 一次世界大戦と日本の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパにおける協商対同盟の対立とパン＝スラヴ主義対パン＝ゲルマン主義のバルカン半島をめぐる対立と第一次世界大戦、大戦と日本のかかわりと社会主義政権の誕生 <p>2章 ■ 國協調と大衆社会の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大戦後のヴェルサイユ体制の成立と国際連盟設置による国際協調の確立と日本のかかわり。朝鮮・中国での抗日の高まりやアジアでの民族運動の展開。ヨーロッパやアメリカにおける大衆の政治参加への動きと日本への影響について 	<ul style="list-style-type: none"> ・開国後の日本について理解できるか (a)
10 11	3部 国際秩序の変化や大衆化と私達	16	<p>3章 ■ 本の行方と第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌に対する世界経済の対応とファシズムの台頭による対外戦争への危機。日本の経済復興と軍部の台頭による大陸進出による満州事変から第二次世界大戦に至る過程 <p>4章 ■ 出発する世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大戦後の国際連合を中心とする国際秩序の確立。アメリカとソヴィエトを中心とする冷戦の始まりとその構造。日本撤退後の東・東南アジアの独立への道と占領下の日本の回復への道について 	<ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約解消に向けての動きと国家体制の矛盾について考察できるか (b) ・第一次世界大戦に向けてのヨーロッパの対立とそれに対する日本の対応を理解できるか。 (a) ・第一次世界大戦の意義を今までの流れから考察できるか (b) ・大戦後の国際協調と日本のかかわりやアジアでの民族運動の高揚について理解できるか。 (a) ・大衆の政治参加への動きの要因を考察できるか (b)

12	4部グローバル化と私たち		
1		20	<p>1章闘戦で揺れる世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の緊張緩和とヨーロッパの独自外交の中での日本の対応と高度経済成長によるアジアのリーダーとしての日本の動向。脱植民地化の中での第三勢力結成の動きとパレスチナ問題を発端とする中東の情勢について <p>2章闘極化する世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大国アメリカの動搖に伴う国際秩序の変化と日本の経済大国への歩みと国際社会との経済摩擦の発生。アジア・南米の経済発展とイスラーム世界の復興による世界の多極化について学ぶ <p>3章グローバル化の中の世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の終結による世界の構図の変化と地域連合の進展やグローバル化の進展。湾岸戦争を発端とするアメリカと中東情勢の推移。冷戦終結による日本の体制の変化とグローバル化の進展に伴う日本経済の変化について学ぶ <p>これまでの学習の振り返り</p>
2			<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦構造の変化と中東の情勢の世界における影響を理解できるか (a) ・日本の高度経済成長を世界の動きと関連させて考察できるか (b) <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの動搖と日本の経済大国化に伴う経済摩擦について理解できるか (a) ・世界の中の多極化の進行の要因を考察できるか (b) <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後のグローバル化の進行と新しい世界の対立について理解できるか (a) ・冷戦後の世界の構造の変化とそれに対する日本社会の変化について関連させて考察できるか (b)

科 目	歴史総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1年普通科
使用教科書	明解 歴史総合	(帝国書院)			
補助教材等	「明解歴史総合図説シンフォニア最新版」 「明解歴史総合ノート」	(帝国書院)			

1 学習の到達目標

近現代における社会的事象の歴史的見地・思考からグローバル化する国際社会に適応できる能力を身に着けることを目指す。

- (1) 図本の歴史と世界の歴史の流れを学習し、日本と世界の関連性を把握することによって日本を広く相互的視野から捉え、現代的諸課題の形成にかかわる歴史を理解する。
- (2) 現代の歴史の変化にかかわる意義や特色を現在とのつながりを意識させ、多面的・多角的に考察し、課題の解決への道筋を考えさせる。
- (3) りよい社会の実現のため、主体的に問題解決への考えを養うとともに、日本の歴史の理解と他国の歴史や文化を理解・尊重する態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・歴史総合は近現代の歴史を主に学ぶ教科であるため、それ以前の世界史の概要をある程度把握しているとより良い学びになると思います。
- ・成績を決定するうえで、考査が重要であるためコツコツとワーク等を進めておくのがすごく重要になります。
- ・普段から歴史的な視点から物事をとらえられるようにしてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	授業の内容を理解できているか。 歴史の中で重要な事柄を把握できているか	各単元における学習課題を授業内容に即し、判断・表現できるか。	授業内での問い合わせに積極的姿勢で取り組めるか。 ノートやワークブックがきちんと書かれているか。
主な評価方法	・定期テスト	・定期テストの思考・判断・表現に関する問題 ・授業内での取り組み	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	單 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	各地域の諸文明	12	・近現代以前の諸地域の歴史の流れを地域ごとに把握する	・諸地域の主要な国家を把握できているか (a)
	1部 歴 史の扉 2部 歴 代化と私たち		・歴史の学び方・資料の読み取方・歴史叙述の特徴を学ぶ 1章 江戸時代の日本と結びつく世界 江戸時代における日本と世界のつながりと清王朝を中心とするアジア社会とイスラームとヨーロッパの拡大について	・資料の読み取り方・叙述の特徴を理解できるか (a) (b) ・江戸時代の日本の世界とのつながりやアジアとヨーロッパの関係を理解できるか (a) ・アジアとヨーロッパは何を通じて結びついていたか考察できるか (b)
6	2部 近代化と私たち	12	1章 欧米諸国における近代化 ・ヨーロッパにおける市民革命による民主主義国家の誕生と産業革命によるイギリスの繁栄と国際分業体制の確立について	・民主主義革命と国民意識の芽生えや産業革命とその影響を理解できるか (a)
			2章 近代化の進展と国民国家の形成 1800年代のヨーロッパにおけるナショナリズムの台頭による、ドイツ・イタリアの統一・クリミア戦争を発端とするロシアを中心とした東方問題・アメリカの拡大と帝国主義の成立について	・イギリスとアメリカ・フランスの革命を比べ考察する (b) ・各国の近代化の推進とナショナリズムから起こる帝国主義について理解できるか (a) ・なぜナショナリズムが台頭したか考察できるか (b)
7			3章 アジア諸国の動搖と日本の開国 オスマン帝国の衰退に伴うイスラーム世界の改革と帝国主義によるヨーロッパ勢力のアジアの植民地化と開国に向けての江戸幕府の動搖について	・オスマン衰退に伴うイスラーム世界の改革とヨーロッパ勢力のアジアの植民地化に伴う日本の動搖について理解できるか (a) ・植民地化に対する神と日本の対応を考察する (b)

8 9	2部 近代化と私たち 3部 国際秩序の変化や大衆化と私達	10	<p>5章 ■ 代化が進む日本と東アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開国後の日本の近代化への道のりと日清・日露戦争による対外進出や不平等条約の改正を目指す日本の動きについて。 <p>1章 ■ 一次世界大戦と日本の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパにおける協商対同盟の対立とパン＝スラヴ主義対パン＝ゲルマン主義のバルカン半島をめぐる対立と第一次世界大戦、大戦と日本のかかわりと社会主義政権の誕生 <p>2章 ■ 國協調と大衆社会の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大戦後のヴェルサイユ体制の成立と国際連盟設置による国際協調の確立と日本のかかわり。朝鮮・中国での抗日の高まりやアジアでの民族運動の展開。ヨーロッパやアメリカにおける大衆の政治参加への動きと日本への影響について 	<ul style="list-style-type: none"> ・開国後の日本について理解できるか (a)
10 11	3部 国際秩序の変化や大衆化と私達	16	<p>3章 ■ 本の行方と第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌に対する世界経済の対応とファシズムの台頭による対外戦争への危機。日本の経済復興と軍部の台頭による大陸進出による満州事変から第二次世界大戦に至る過程 <p>4章 ■ 出発する世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大戦後の国際連合を中心とする国際秩序の確立。アメリカとソヴィエトを中心とする冷戦の始まりとその構造。日本撤退後の東・東南アジアの独立への道と占領下の日本の回復への道について 	<ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約解消に向けての動きと国家体制の矛盾について考察できるか (b) ・第一次世界大戦に向けてのヨーロッパの対立とそれに対する日本の対応を理解できるか。 (a) ・第一次世界大戦の意義を今までの流れから考察できるか (b) ・大戦後の国際協調と日本のかかわりやアジアでの民族運動の高揚について理解できるか。 (a) ・大衆の政治参加への動きの要因を考察できるか (b)

12	4部グローバル化と私たち		
1		20	<p>1章闘戦で揺れる世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の緊張緩和とヨーロッパの独自外交の中での日本の対応と高度経済成長によるアジアのリーダーとしての日本の動向。脱植民地化の中での第三勢力結成の動きとパレスチナ問題を発端とする中東の情勢について <p>2章闘極化する世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大国アメリカの動搖に伴う国際秩序の変化と日本の経済大国への歩みと国際社会との経済摩擦の発生。アジア・南米の経済発展とイスラーム世界の復興による世界の多極化について学ぶ <p>3章グローバル化の中の世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の終結による世界の構図の変化と地域連合の進展やグローバル化の進展。湾岸戦争を発端とするアメリカと中東情勢の推移。冷戦終結による日本の体制の変化とグローバル化の進展に伴う日本経済の変化について学ぶ <p>これまでの学習の振り返り</p>
2			<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦構造の変化と中東の情勢の世界における影響を理解できるか (a) ・日本の高度経済成長を世界の動きと関連させて考察できるか (b) <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの動搖と日本の経済大国化に伴う経済摩擦について理解できるか (a) ・世界の中の多極化の進行の要因を考察できるか (b) <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後のグローバル化の進行と新しい世界の対立について理解できるか (a) ・冷戦後の世界の構造の変化とそれに対する日本社会の変化について関連させて考察できるか (b)

科 目	地理総合	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2年普通科・商業科
使用教科書	新地理総合 (帝国書院)			新詳高等地図 (帝国書院)	
補助教材等	新編地理資料2025 (とうほう)		2025地理総合演習ノート (啓隆社)		

1 学習の到達目標

高度情報化・国際化が進む中で、世界が直面する様々な課題に対する知識・見方・考え方を身に付ける。また、多様な自然と人間相互の関係やそこから生まれた文化、さらには地理的な技能を学び、自らの手で考察できる力を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

単に知識を身に付けるのではなく、それぞれの関連性や理屈・道理を理解するように心掛ける。地図で場所を調べたりといった単純なことをきちんと行うことも大切である。また、授業以外にも世界で起こっている出来事に注意を払い、現代世界の動きに興味を持ってほしい。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	地理に関する知識を身に付け、その関連性をきちんと理解できているか。地理的な技能、地形図・統計などをきちんと読み取れるか。	学んでいること・出来事がどんな意味を持つのか考え、自分の意見として適切に表現できるか。	地理的事象や日常の出来事に興味を持ち、新聞・タブレットなどを通じて自ら学ぶ姿勢を身に付けることができるか。
主な評価方法	定期テスト 授業内での取り組み	定期テストの思考・判断・表現に関する問題 授業態度 提出物	

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 値 規 準
4	第1部 地図でとらえる現代世界	6	1. 地図と地理情報システム	時差・地図に関する理解(a)(b) 読図 (c)
5		6	2. 結びつきを深める現代世界	国家・国家の結びつき・通信網に関する理解(a)(b)
6	第2部 国際理解と国際協力	4	1. 世界の地形と人々の生活	大地形・小地形の理解・考察(a)(b)
		4	2. 世界の気候と人々の生活	気候と産業の理解・考察(a)(b)
7		4	3. 世界の言語・宗教と人々の生活	言語・宗教・歴史/と人々の生活の関連についての理解(a)(b)
8		4	4. 歴史的背景と人々の生活	農業・工業に関する理解(a)(b)
9		4	5. 世界の産業と人々の生活	
10		4	6. 複雑に絡み合う地球的課題	6.~11.地球的課題と国際協力に関する理解・問題意識 (a)(b) (c)
11		4	7. 地球環境問題	
		6	8. 資源・エネルギー問題	
		4	9. 人口問題	
		4	10. 食料問題	
12	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	6	11. 都市・居住問題	
1		5	1. 自然環境と防災	自然災害に関する理解・課題認識、興味(a) (b) (c)
2		5	2. 生活圏の調査と地域の	

科 目	日本史探究	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2年・文1・文2
使用教科書	「詳説日本史」山川出版社				
補助教材等	「最新日本史図表」(第一学習社)・「日本史研究ノート標準編」(啓隆社)				

1 学習の到達目標

日本列島に人類文化が誕生してから国家として近代化されるまでの有様を、世界全体の動き、特に東アジアと関連させて考察し、先人が残してくれた誇りうる歴史的遺産を認識するとともに、歴史から得た教訓を将来に生かす態度を養う。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 日々の予習と復習をしっかりとしてください。
- 歴史的な出来事については「原因」「経過」「結果」をしっかりと把握し、自分の言葉で説明できるようになります。
- 明確な答えのない問い合わせもたくさんあります。授業で習った様々な知識から総合的に判断し、自分なりの合理的な見解を示せるようになります。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	何かを覚えることは歴史を学ぶことの本質ではないが、やはり自分なりの「歴史観」を持つうえで正確な知識は欠かせない。 また同様に、文章の読み取り、図画資料や表・グラフなどを正確に読み取る技能も必要である。	小型の携帯端末でいつでも調べ物ができる現代にあっては、正確な知識を持っているだけではそれ以上の価値を持つことはできない。 自分の中に蓄えた知識を用いて思考・判断し、自分なりの見解を発信する力が求められる。	社会的な事象は教科書や授業の中で完結するものではなく、常に実社会との関連性を持っている。社会科で得た力を有意義なものにするためにには、日常の中においても「社会科的見地」で見るという態度が必要となる。 授業で得た知識を日常の事象に当てはめる、あるいは日常で感じたことを元に授業で歴史について考察する。このように双方面から主体的な態度が求められる。
主な評価方法	・ペーパーテスト（事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題）の結果で評価する。	・ペーパーテストの一部で、思考・判断・表現力を必要とする問題を出題し、その結果で評価する。	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・提出された授業ファイルの内容 上記をもとに評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章 日本文化のあけぼの	28	古代日本の形成と律令国家の形成に至る概要を多角的に考察し、理解する。	・律令国家の形成に至るまでの過程を史料等を用いて多角的に追及している。 (a) ・律令に関する史料から読み取れた内容をもとに、律令国家がどのような国づくりを目指していたかについて思考することができる。 (b)
5	第2章 古墳とヤマト政権			
6	第3章 律令国家の形成			
7				
8	第4章 貴族政治の展開	29	貴族社会の成立とその発展及び文化の成熟について理解する 武家社会に移行する歴史的過程について、多角的に考察し、理解する	・貴族社会の成立から武家政権の成立までに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 (a) ・武家政権が成立した過程とその必然性を自分の言葉で説明することができる。 (b)
9	第5章 院政と武士の躍進			
10	第6章 武家政権の成立			
11				
12	第7章 武家社会の成長	13	武家社会の成熟と江戸幕府の支配体制について、社会経済の動向及び世界史的観点も取り入れながら多角的に考察し、理解する	各武家政権の特徴と違いについて理解することができる。 (a) 江戸幕府が長命であったことについて、それまでの武家政権と比較しながら、その理由を説明できる。 (b)
1	第8章			
2	近世の夜明け 第9章 幕藩体制の成立と展開			

科 目	日本史探究	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 年 文a・文b
使用教科書	詳説日本史 (山川出版)				
補助教材等	最新日本史図表 (第一学習社)	日本史研究ノート (啓隆社)			

1 学習の到達目標

2年時の続きで、近世の入り口の織豊政権から幕藩体制が確立。開国以降の日本の近代国家の確立の過程・発展について世界全体の動きとアジア諸国との関連を考察し、先人が残してくれた歴史遺産を認識するとともに、歴史から得た教訓を将来に生かす態度を養う。社会的事象の歴史的見方・考え方を生かし、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化されていく国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 歴史は流れが大事。教科書をよく読むことが理解への早道。なぜそのことが起こったのか、原因は必ず過去にあるので、原因を確認することで物事のつながりを理解できる。
- 授業中、板書を移すことで満足せず、説明を聞き資料をよく見ること。
- ノート・プリントをきちんと取り、予習・復習をすること

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	授業の内容を理解できているか。 歴史の中で重要な事柄を把握し、事象面を連動してとらえられるか。	各単元における学習課題を授業の内容に即し、判断・表現できるか。	授業内での問い合わせに積極的な姿勢で取り組めるか。 プリント・ワークブックがきちんと書かれているか
主な評価方法	・定期テスト	・定期テスト ・授業内の課題への取り組み	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 標 準
4	8章 ・ 近世の幕開け		織豊政権 近世の入り口である織田信長・豊臣秀吉の全国統一の過程と制度変革について	中世までの社会の制度を理解し、織豊政権化での改革の内容・主旨が叙述や資料から理解できるか。 (a) (b)
5	9章 幕藩体制の成立と展開	15	桃山文化 日本の伝統文化の発展について 幕藩体制の成立 幕藩体制の構造 江戸時代の基礎となる、政治・社会・外交の諸制度の確立による、封建的身分の構築と社会における役割について	室町文化から始まる日本の伝統文化の発展を理解し、資料を読み取ることができるか。 (a) (b) 織豊政権での政治体制の変革や外交関係について叙述や資料から理解できるか (a) (b) 幕藩体制の構造や封建的身分制度を理解できるか。 (a) (b)
6	9章 幕藩体制の成立と展開		幕政の安定 経済の発展 元禄文化 江戸時代の前期に構築された幕藩体制の安定期の元禄・正徳の時代の政治と発達する諸産業、町人文化を中心とする文化の構築・発展について	幕藩体制の安定期の政治・社会・経済を叙述や資料から理解できるか。 (a) (b) 社会・経済の発達に伴う文化形成で、町人を中心とする文化について資料を通じて理解できるか (a) (b)
7	10章 幕藩体制の動搖	15	幕藩体制の成立 幕藩体制の構造 江戸時代の基礎となる、政治・社会・外交の諸制度の確立による、封建的身分の構築と社会における役割について	幕藩体制の安定期の政治・社会・経済を叙述や資料から理解できるか。 (a) (b) 社会・経済の発達に伴う文化形成で、町人を中心とする文化について資料を通じて理解できるか (a) (b)

8 9	11章 ・近世から近代へ	15	開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足 諸外国の圧力による開国とそれに伴う社会の変化と政治体制の変革を目指す社会の動きと新しい近代国家を目指す新政府の誕生の過程について	開国後の政治体制の変革への動きと経済の変化を理解できるか (a) 新政府発足に向けての争いと新たな政治体制の確立に向けての流れを理解し考察できるか (a) (b)
9 10 11	12章 ・近代国家の成立 13章 近代国家の発展 14章 近代の産業と生活	35	明治維新と富国強兵 立憲国家の成立 新政府を中心とした近代国家に向けての政治・社会の制度の確立に向けての展開と成立、それに伴う社会の変容について 日清・日露戦争と国際関係 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 近代国家への成長の中で藩閥政治から政党政治を目指す政治と世界の帝国主義への仲間入りを目指す外交、第一次世界大戦と戦後の国際協調体制への関りについて 近代産業の発展 近代文化の発達 市民生活の変容と大衆文化 封建的社會から脱却し、立憲国家体制の中での産業・文化の発達と市民社会の大きな変化から生まれる大衆文化の構築について	明治維新による政治・社会の変革を制度改革と関連し理解し考察できるか (a) (b) 社会の変容に伴う国民生活の変化について理解し考察できるか (a) (b) 憲法施行・国会開設による政治の変遷を、背景を理解し考察できるか (a) (b) 列強の帝国主義に対し、日清・日露戦争を通じ日本の外交を理解し考察できるか (a) (b) この時代の政党政治について背景も含め理解できるか (a) 第一次世界大戦後の国際協調体制への日本の関りを政治・経済を理解し考察できるか (a) (b) 明治維新後の殖産興業による近代産業の発展と経済の変化についてその背景も含み理解し考察できるか (a) (b) 文明開化後の西洋文化の流入と新しい文化の構築やそれが市民社会に浸透し大衆文化となることを理解し考察できるか (a) (b)

	15章 恐慌と第二次世界大戦	恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦 明治維新以降順調に発展した日本で1920年代の連續した恐慌による経済打撃と政党政治の打破を目指す軍部の台頭による大陸進出に伴う世界との関係について	経済恐慌が続く中、軍部が台頭し、満州事変から太平洋戦争に向かう日本の流れを理解し、その背景も含め考察できるか (a) (b)
12 1 2	16章 占領下の日本 17章 高度成長の時代 18章 激動する世界と日本	占領と改革 冷戦の開始と講和 敗戦後の占領政策による民主化改革と東西冷戦の中での主権国家としての国際社会への復帰について 23 55年体制 経済復興から高度経済成長へ 冷戦下の中、安定した政治体制の55年体制の確立と政治の安定に伴う著しい経済成長をした日本社会の変容について 経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の変容 石油危機を克服し経済大国に発展した経済とバブル崩壊後の低迷する経済や冷戦が終結し国際関係の変化に対応について	占領政策による民主化改革に対する日本の対応と経済の復興について、背景も含め理解し考察できるか (a) (b) サンフランシスコ講和会議以降、国際復帰した後の日本の外交について理解し考察できるか (a) (b) 55年体制による政治の安定と高度経済成長に伴う社会生活の変化について理解し考察できるか (a) (b) 経済大国に発展したのち、バブル経済崩壊が崩壊した社会の変容と冷戦終結後の世界に対する外交について理解し考察できるか (a) (b)

科目	政治経済	単位数	3	履修学年・クラス(講座)	3学年文系、理系選択者
使用教科書	政治・経済(東書)				
補助教材等	要点マスター政治・経済整理と演習(東書)・テーマ別資料政治・経済(とうほう)				

1 学習の到達目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けた構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

授業をよく聞き配布資料に書き込みをするなどして積極的な授業参加を心がけてください。また理論を覚えるだけではなく、実生活の中でどのようにその理論が反映されているかも考え、表現できるようにしましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛けりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に議論し公正に判断することができる。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとするとともに、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとすることができる。
主な評価方法	5回の考查およびレポート等の課題を持って評価する。	5回の考查およびレポート等の課題で評価する。	授業に向かう態度、課題の取り組みなどをもって評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	日本国憲法の基本原理	10	日本国憲法の制定と基本原理	大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解している。(a) 憲法改正に関する議論について多面的・多角的に考察している。(b)
5	日本国憲法の基本原理	12	基本的人権の尊重 平和主義	基本的人権や日本の安全保障体制の変化について、自分の生活と関連付けながら理解し、多面的・多角的に考察している。(a)(b)
6	現代経済のしくみ	12	経済主体と経済の循環 生産のしくみと企業	経済活動の基本原理や経済に関わる理論について理解し、多面的・多角的に考察している。(a)(b)
7	現代経済のしくみ	9	市場経済の機能と限界	市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性について理解している。(a) 市場は必ずしも万能ではないといわれる理由について多面的・多角的に考察している。(b)
8	現代経済のしくみ	3	国民所得と経済成長	経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動のしくみについて理解している。(a) インフレやデフレが国民生活にどのような影響を与えるか多面的・多角的に考察している。(b)
9	現代経済のしくみ	12	金融のしくみと機能 財政のしくみと機能	金融・財政の役割や公平な税制のあり方について理解し、多面的・多角的に考察している。(a)(b)
10	日本経済の発展と現状	12	戦後日本経済の発展 日本経済の現状	戦後復興から現代にいたるまでの経済政策が日本社会に与えた影響について理解している。(a) 日本経済が抱える課題を解決すればどうすればよいか多面的・多角的に考察している。(b)
11	福祉社会と日本経済の課題	12	公害と環境保全 農業・食料問題 中小企業の現状と課題	公害と環境保全、農業・食料問題、中小企業の現状と課題について理解している。(a) 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察している。(b)
12	福祉社会と日本経済の課題	12	情報化の進展と社会の変化 消費者問題 雇用と労働問題	情報化の進展と社会の変化、消費者問題、雇用と労働問題について理解している。(a) 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察している。(b)
1	福祉社会と日本経済の課題	8	社会保障と福祉	社会保障と福祉社会の実現について理解している。(a) 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察している。(b)
2				

科 目	政治経済	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3年商業科
使用教科書	政治・経済 (東書)				
補助教材等	要点マスター政治・経済整理と演習 (東書) ・ テーマ別資料政治・経済 (とうほう)				

1 学習の到達目標

社会の在り方についての見方・考え方を働きかせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けた構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に着ける

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

授業をよく聞き配布資料に書き込みをするなどして積極的な授業参加を心がけてください。また理論を覚えるだけではなく、実生活の中でどのようにその理論が反映されているかも考え、表現できるようにしましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に議論し公正に判断することができる。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとするとともに、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとすることができる。
主な評価方法	5回の考查およびレポート等の課題を持って評価する。	5回の考查およびレポート等の課題で評価する。	授業に向かう態度、課題の取り組みなどをもって評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	日本国憲法の基本原理	7	日本国憲法の制定と基本原理	大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解している。 (a) 憲法改正に関する議論について多面的・多角的に考察している。 (b)
5	日本国憲法の基本原理	8	基本的人権の尊重 平和主義	基本的人権や日本の安全保障体制の変化について、自分の生活と関連付けながら理解し、多面的・多角的に考察している。 (a)(b)
6	現代経済のしくみ	8	経済主体と経済の循環 生産のしくみと企業	経済活動の基本原理や経済に関わる理論について理解し、多面的・多角的に考察している。 (a)(b)
7	現代経済のしくみ	7	市場経済の機能と限界	市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性について理解している。 (a) 市場は必ずしも万能ではないといわれる理由について多面的・多角的に考察している。 (b)
8	現代経済のしくみ	3	国民所得と経済成長	経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動のしくみについて理解している。 (a) インフレやデフレが国民生活にどのような影響を与えるか多面的・多角的に考察している。 (b)
9	現代経済のしくみ	8	金融のしくみと機能 財政のしくみと機能	金融・財政の役割や公平な税制のあり方について理解し、多面的・多角的に考察している。 (a)(b)
10	日本経済の発展と現状	8	戦後日本経済の発展 日本経済の現状	戦後復興から現代にいたるまでの経済政策が日本社会に与えた影響について理解している。 (a) 日本経済が抱える課題を解決すればどうすればよいか多面的・多角的に考察している。 (b)
11	福祉社会と日本経済の課題	8	公害と環境保全 農業・食料問題 中小企業の現状と課題	公害と環境保全、農業・食料問題、中小企業の現状と課題について理解している。 (a) 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察している。 (b)
12	福祉社会と日本経済の課題	8	情報化の進展と社会の変化 消費者問題 雇用と労働問題	情報化の進展と社会の変化、消費者問題、雇用と労働問題について理解している。 (a) 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決

			に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察している。(b)
1	福祉社会と日本経済の課題	5	社会保障と福祉 社会保障と福祉社会の実現について理解している。(a) 日本の経済や社会が抱える諸課題の解決に向けて自分には何ができるか多面的・多角的に考察している。(b)
2			

科 目	歴史総合	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年商業科
使用教科書	明解 歴史総合 (帝国書院)				
補助教材等	「明解歴史総合図説シンフォニア最新版」 「明解歴史総合ノート」 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

近現代における社会的事象の歴史的見地・思考からグローバル化する国際社会に適応できる能力を身に着けることを目指す。

- (1) 国の歴史と世界の歴史の流れを学習し、日本と世界の関連性を把握することによって日本を広く相互的視野から捉え、現代的諸課題の形成にかかわる歴史を理解する。
- (2) 現代の歴史の変化にかかわる意義や特色を現在とのつながりを意識させ、多面的・多角的に考察し、課題の解決への道筋を考えさせる。
- (3) よりよい社会の実現のため、主体的に問題解決への考えを養うとともに、日本の歴史の理解と他国の歴史や文化を理解・尊重する態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・歴史総合は近現代の歴史を主に学ぶ教科であるため、それ以前の世界史の概要をある程度把握しているとより良い学びになると思います。
- ・成績を決定するうえで、考査が重要であるためコツコツとワーク等を進めておくのがすごく重要になります。
- ・普段から歴史的な視点から物事をとらえられるようにしてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	授業の内容を理解できているか。 歴史の中で重要な事柄を把握できているか	各单元における学習課題を授業内容に即し、判断・表現できるか。	授業内での問い合わせに積極的姿勢で取り組めるか。 ノートやワークブックがきちんと書かれているか。
主な評価方法	・定期テスト	・定期テストの思考・判断・表現に関する問題 ・授業内での取り組み	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	時数	学習内容	評価規準
4	各地域の諸文明			
5	1部 <u>歴史の扉</u> 2部 <u>近代化と私たち</u>	24	<ul style="list-style-type: none"> 近現代以前の諸地域の歴史の流れを地域ごとに把握する 歴史の学び方・資料の読み取方・歴史叙述の特徴を学ぶ <p>1章 江戸時代の日本と結びつく世界 江戸時代における日本と世界のつながりと清王朝を中心とするアジア社会とイスラームとヨーロッパの拡大について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域の主要な国家を把握できているか (a) 資料の読み取り方・叙述の特徴を理解できるか (a) (b) 江戸時代の日本の世界とのつながりやアジアとヨーロッパの関係を理解できるか (a) アジアとヨーロッパは何を通じて結びついていたか考察できるか (b)
6	2部 <u>近代化と私たち</u>	24	<p>1章 欧米諸国における近代化</p> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパにおける市民革命による民主主義国家の誕生と産業革命によるイギリスの繁栄と国際分業体制の確立について <p>2章 近代化の進展と国民国家の形成 1800年代のヨーロッパにおけるナショナリズムの台頭による、ドイツ・イタリアの統一・クリミア戦争を発端とするロシアを中心とした東方問題・アメリカの拡大と帝国主義の成立について</p> <p>3章 アジア諸国の動搖と日本の開国 オスマン帝国の衰退に伴うイスラーム世界の改革と帝国主義によるヨーロッパ勢力のアジアの植民地化と開国に向けての江戸幕府の動搖について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 民主主義革命と国民意識の芽生えや産業革命とその影響を理解できるか (a) イギリスとアメリカ・フランスの革命を比べ考察する (b) 各国の近代化の推進とナショナリズムから起こる帝国主義について理解できるか (a) なぜナショナリズムが台頭したか考察できるか (b) オスマン衰退に伴うイスラーム世界の改革とヨーロッパ勢力のアジアの植民地化に伴う日本の動搖について理解できるか (a) 植民地化に対する神と日本の対応を考察する (b)
8	2部 <u>近代化と私たち</u>	16	<p>5章 <u>近代化が進む日本と東アジア</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 開国後の日本の近代化への道のりと日清・日露戦争による对外進出や不平等条約の改正を目指す日本の動きについて。 <p>1章 <u>第一次世界大戦と日本の対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパにおける協商対同盟の対立とパン＝スラヴ主義対パン＝ゲルマン主義のバルカン半島をめぐる対立と第一次世界大戦、大戦と日本のかかわりと社会主義政権の誕生 <p>2章 <u>国際協調と大衆社会の広がり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 大戦後のヴェルサイユ体制の成立と国際連盟設置による国際協調の確立と日本のかかわり。朝鮮・中国での抗日の高まりやアジアでの民族運動の展開。ヨーロッパやアメリカにおける大衆の政治参加への動きと日本への影響について 	<ul style="list-style-type: none"> 開国後の日本について理解できるか (a) 不平等条約解消に向けての動きと国家体制の矛盾について考察できるか (b) 第一次世界大戦に向けてのヨーロッパの対立とそれに対する日本の対応を理解できるか。 (a) 第一次世界大戦の意義を今までの流れから考察できるか (b) <p>・大戦後の国際協調と日本のかかわりやアジアでの民族運動の高揚について理解できるか。 (a)</p> <p>・大衆の政治参加への動きの要因を考察できるか (b)</p>
9	3部 <u>国際秩序の変化や大衆化と私達</u>			

10 11	3部 国際秩序の変化や大衆化と私達 24	<p>3章 国本の行方と第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌に対する世界経済の対応とファシズムの台頭による対外戦争への危機。日本の経済復興と軍部の台頭による大陸進出による満州事変から第二次世界大戦に至る過程 <p>4章 出発する世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> 大戦後の国際連合を中心とする国際秩序の確立。アメリカとソヴィエトを中心とする冷戦の始まりとその構造。日本撤退後の東・東南アジアの独立への道と占領下の日本の回復への道について 	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌から始まる第2次世界大戦に至る過程を理解できるか。 (a) ファシズムの台頭や日本の軍部の台頭についてその要因を考察できるか (b) 大戦後の国際秩序と冷戦の構図による世界の動きを理解できるか (a) 日本の回復について、世界の動向と関連させて考察できるか (b)
12 1 2	4部 グローバル化と私たち 17	<p>1章 戦で揺れる世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷戦の緊張緩和とヨーロッパの独自外交の中での日本の対応と高度経済成長によるアジアのリーダーとしての日本の動向。脱植民地化の中での第三勢力結成の動きとパレスチナ問題を発端とする中東の情勢について <p>2章 極化する世界</p> <ul style="list-style-type: none"> 大国アメリカの動搖に伴う国際秩序の変化と日本の経済大国への歩みと国際社会との経済摩擦の発生。アジア・南米の経済発展とイスラーム世界の復興による世界の多極化について学ぶ <p>3章 グローバル化の中の世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷戦の終結による世界の構図の変化と地域連合の進展やグローバル化の進展。湾岸戦争を発端とするアメリカと中東情勢の推移。冷戦終結による日本の体制の変化とグローバル化の進展に伴う日本経済の変化について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦構造の変化と中東の情勢の世界における影響を理解できるか (a) 日本の高度経済成長を世界の動きと関連させて考察できるか (b) アメリカの動搖と日本の経済大国化に伴う経済摩擦について理解できるか (a) 世界の中の多極化の進行の要因を考察できるか (b) 冷戦終結後のグローバル化の進行と新しい世界の対立について理解できるか (a) 冷戦後の世界の構造の変化とそれに対する日本社会の変化について関連させて考察できるか (b)

科 目	数学 I	単位数	3 単位	履修学年・クラス (講座)	1 学年普通科
使用教科書	「新編 数学 I」 (数研出版)				
補助教材等	「3 TRIAL 数学 I」, 「完成ノート」 (数研出版)				

1 学習の到達目標

高校数学の基礎となる数学 I の内容を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指し、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 数学の授業は毎日あります。家庭学習も、復習を中心に毎日行うことを心がけてください。
 - 予習は、授業前に教科書を 2, 3 分見るだけでも効果があります。
 - 問題集の問題を解いたあとは答合わせをし、間違えたものは解き直してください。
解き方がわからない場合は解答を写してかまいません。
- 途中式も丁寧に書く習慣をつけてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いているか。	数や式を目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、表・式・グラフを相互に関連付けて考察する力、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、問題を解決したり、結果を考察し判断したりする力がついているか。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いているか。
主な評価方法	・定期考查	・定期考查 ・レポート ・ノート	・出欠状況 ・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	50	1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明	(a) 多項式や根号を含む式の計算ができる。不等式の性質や集合の表し方など理解している。平方完成ができる。 (b) 公式などを適切に判断して、活用することができる。 (c) よりよい方法を考察し、問題を解決することができる。
5	第2章 集合と命題			
6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化		1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	
7	第3節 2次方程式と2次不等式	55	5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸 7. 2次不等式 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	(a) 2次不等式を解くことができる。三角比の定義を理解している。データを分析する上で必要な定義や意味を理解し求めることができる。 (b) 2次不等式など2次関数のグラフから考察することができる。具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。身近な統計における代表値の意味について考察し適切に判断して、活用することができる。 (c) 具体的な事象に当てはめて考えることができる。
8	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用			
9	第5章 データの分析		1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	
10	(引き続き数学Aに進む)			
11				
12				
1				
2				

科 目	数学A	単位数	2 単位	履修学年・クラス (講座)	1 学年普通科
使用教科書	「新編 数学A」 (数研出版)				
補助教材等	「3 TRIAL 数学 I + A」, 「完成ノート」 (数研出版)				

1 学習の到達目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 数学の授業は毎日あります。家庭学習も、復習を中心に毎日行うことを心がけてください。
 - 予習は、授業前に教科書を2, 3分見るだけでも効果があります。
 - 問題集の問題を解いたあとは答合わせをし、間違えたものは解き直してください。
解き方がわからない場合は解答を写してかまいません。
- 途中式も丁寧に書く習慣をつけてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いているか。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力がついているか。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いているか。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・レポート ・ノート	・出欠状況 ・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	(数学 I)			
5				
6				
7	(数学 I)			
8				
9				
10	(ここまで数学 I) 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	15	1. 集合の要素の個数 3. 順列 6. 確率の基本性質 8. 条件付き確率 2. 場合の数 4. 組合せ 5. 事象と確率 7. 独立な試行と確率 9. 期待値	(a) 記号や法則などを理解し、求められる。確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 (b) 公式などを理解し、考察することができる。確率の性質を一般的に考察することができる。 (c) 日常的な事柄などを、数学的に考えようとする。具体的な事象について、確率を、興味をもって調べようとする。
11				
12	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	35	1. 三角形の辺の比 2. 三角形の内心・外心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 8. 直線と平面 9. 区間図形と多面体	(a) 定義や性質など基本事項を理解している。 (b) 定理を理解し、考察することができる。 (c) 性質など、論理的に考察しようとすることができる。
1				
2	第3章 数学と人間の活動			

科 目	数学 I	単位数	3 単位	履修学年・クラス (講座)	1 学年商業科
使用教科書	「新編 数学 I + A」 (数研出版)				
補助教材等	「基本と演習テーマ数学 I」, 「完成ノート」 (数研出版)				

1 学習の到達目標

高校数学の基礎となる数学 I の内容を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指し、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 数学の授業は毎日あります。家庭学習も、復習を中心に毎日行うことを心がけてください。
- 予習は、授業前に教科書を 2, 3 分見るだけでも効果があります。
- 問題集の問題を解いたあとは答合わせをし、間違えたものは解き直してください。
- 解き方がわからない場合は解答を写してかまいません。
- 途中式も丁寧に書く習慣をつけてください。
- ・

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いているか。	数や式を目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、表・式・グラフを相互に関連付けて考察する力、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、問題を解決したり、結果を考察し判断したりする力がついているか。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いているか。
主な評価方法	・定期考查	・定期考查 ・レポート ・ノート	・出欠状況 ・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	30	1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏	(a) 多項式や根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。不等式の性質を理解している。集合について表し方など理解している。 (b) 公式などを適切に判断して、活用することができる。 (c) よりよい方法を考察し、問題を解決することができる。
5	第2章 集合と命題	45	4. 命題と証明	
6			1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸 7. 2次不等式	
7	第2章 集合と命題	45	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	(a) 2次関数のグラフについて、平行移動など理解し、平方完成から頂点と軸を調べることができる。 2次不等式を解くことができる。 三角比の定義を理解している。 (b) 2次方程式や2次不等式など2次関数のグラフから考察することができる。適切に判断して、活用することができる。三角比で表す式を理解し、応用問題に利用できる。 (c) よりよい方法を考察し、問題を解決することができる。
8	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節			
9	2次方程式と2次不等式			
10	第4章 図形と計量 第1節 三角比			
11				
12	第2節 三角形への応用	30	4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	(a) 定理を用いて、三角形の辺の長さ、角の大きさや面積を求めることができる。データを分析する上で必要な定義や意味を理解し求めることができる。 (b) 具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。 (c) 具体的な事象に当てはめて考えることができる。
1	第5章 データの分析		1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	
2				

科 目	数学Ⅱ	単位数	3 単位	履修学年・クラス (講座)	2 学年・文系
使用教科書	「新編 数学Ⅱ」 (数研出版)				
補助教材等	「3 TRIAL 数学Ⅱ」, 「完成ノート」 (数研出版)				

1 学習の到達目標

いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数および微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 家庭学習も、復習を中心に毎日行うことを心がけてください。
 - 予習は、授業前に教科書を2、3分見るだけでも効果があります。
 - 問題集の問題を解いたあとは答合わせをし、間違えたものは解き直してください。
解き方がわからない場合は解答を写してかまいません。
- 途中式も丁寧に書く習慣をつけてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、および微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考查	・定期考查 ・レポート ・ノート	・出欠状況 ・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章式と証明 第1節式と計算 第2節等式・不等式の証明	30	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数分解 5. 高次方程式	(a)公式を利用して求めることができる。それぞれ適切な方法を利用して証明することができる。 (b)公式など、考察して積極的に用いようとする。 (c)性質を理解し、問題に取り組もうとする。
5	第2章複素数と方程式 第1節複素数と2次方程式の解			
6	第2節高次方程式			
7	第3章图形と方程式 第1節点と直線 第2節円	50	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	(a)図形的条件を式で表現できる。累乗根の定義やグラフの概形、特徴を理解している。 (b)図形の性質を理解し、条件から考察することができる。指數の大小関係や不等式・方程式など考察することができる。 (c)やや複雑な方程式、不等式に積極的に取り組もうとする。
8	第3節軌跡と領域			
9				
10	第5章指數関数と対数関数 第1節指數関数		1. 指數の拡張 2. 指數関数	
11				
12	第2節対数関数 第6章微分法と積分法 第1節微分係数と導関数 第2節関数の値の変化	25	3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	(a)対数の定義、グラフの概形や特徴を理解している。導関数や不定積分の定義や性質を理解し、計算方法を理解している。 (b)関数の増減が調べられることを理解している。微分法の逆演算として不定積分を考察することができる。 (c)性質を利用して、工夫して計算しようとする意欲がある。
1	第3節積分法			

科 目	数学Ⅱ	単位数	4 単位	履修学年・クラス (講座)	2 学年・理系
使用教科書	「新編 数学Ⅱ」 (数研出版)				
補助教材等	「3 TRIAL 数学Ⅱ」, 「完成ノート」 (数研出版)				

1 学習の到達目標

- いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数および微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
- ・
- ・
- ・

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 家庭学習も、復習を中心に毎日行うことを心がけてください。
 - 予習は、授業前に教科書を 2, 3 分見るだけでも効果があります。
 - 問題集の問題を解いたあとは答合わせをし、間違えたものは解き直してください。
解き方がわからない場合は解答を写してかまいません。
- 途中式も丁寧に書く習慣をつけてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、および微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。	等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考查	・定期考查 ・レポート ・ノート	・出欠状況 ・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章式と証明 第1節式と計算 第2節等式・不等式の証明	45	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数分解 5. 高次方程式	(a) 公式を利用して求めることができる。それぞれ適切な方法を利用して証明することができる。 (b) 公式など、考察して積極的に用いようとする。 (c) 性質を理解し、問題に取り組もうとする。
5	第2章複素数と方程式 第1節複素数と2次方程式の解			
6	第2節高次方程式			
7	第3章图形と方程式 第1節点と直線 第2節円	65	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	(a) 図形的条件を式で表現できる。三角関数の性質とグラフの特徴を理解できる。累乗根の定義やグラフの概形、特徴を理解している。 (b) 図形の性質を理解し、条件から考察することができる。三角関数や指数対数を含む不等式・方程式など考察することができる。 (c) やや複雑な方程式、不等式に積極的に取り組もうとする。
8	第3節軌跡と領域			
9	第4章三角関数 第1節三角関数		1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数を含む方程式、不等式 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	
10	第2節加法定理 第5章指數関数と対数関数 第1節指數関数		1. 指數の拡張 2. 指數関数	
11				
12	第2節対数関数 第6章微分法と積分法 第1節微分係数と導関数 第2節関数の値の変化	30	3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	(a) 対数の定義、グラフの概形や特徴を理解している。導関数や不定積分の定義や性質を理解し、計算方法を理解している。 (b) 関数の増減が調べられることを理解している。微分法の逆演算として不定積分を考察することができる。 (c) 性質を利用して、工夫して計算しようとする意欲がある。
1	第3節積分法			

科 目	数学A	単位数	2 単位	履修学年・クラス (講座)	2 学年・商業科
使用教科書	「新編 数学A」 (数研出版)				
補助教材等	「基本と演習テーマ数学 I + A」, 「完成ノート」 (数研出版)				

1 学習の到達目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 数学の授業は毎日あります。家庭学習も、復習を中心に毎日行うことを心がけてください。
 - 予習は、授業前に教科書・ノートを 2, 3 分見るだけでも効果があります。
 - 問題集の問題を解いたあとは答合わせをし、間違えたものは解き直してください。
解き方がわからない場合は解答を写してかまいません。
- 途中式も丁寧に書く習慣をつけてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・レポート ・ノート	・出欠状況 ・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	40	1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	(a) 記号や法則などを理解し、求めるできる。 (b) 公式などを理解し、考察することができる。 (c) 日常的な事柄などを、数学的に数えようとする。
5				
6				
7	第2節 確率		5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 9. 期待値	(a) 確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 (b) 確率の性質を一般的に考察することができる。 (c) 具体的事象について、確率を、興味をもって調べようとする。
8				
9				
10				
11				
12	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	30	1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	(a) 定義や性質など基本事項を理解している。 (b) 定理を理解し、考察することができる。 (c) 性質など、論理的に考察しようとすることができる。
1	第2節 空間図形			

科 目	数学B	単位数	2 単位	履修学年・クラス (講座)	2学年・理系必修, 文系選択
使用教科書	「新編 数学B」 (数研出版)				
補助教材等	「3 TRIAL 数学Ⅱ+B」, 「完成ノート」 (数研出版)				

1 学習の到達目標

数列, 統計的な推測について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・復習が重要。
 - ・復習を毎日、少なくとも1週間ごとに必ず行い、不明な点がないようにしておく。
 - ・不明な点があった場合は、教科担当教諭または友人に質問をして解決をする。
- さらに、問題集(完成ノート)を十分に活用する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考查	・定期考查 ・レポート ・ノート	・出欠状況 ・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	25	1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	(a) 定義など理解し、公式を適切に利用して求めることができる。 (b) 工夫して求める方法について考察できる。 (c) 性質など興味をもち、問題解決に取り組もうとする
5	第2節 いろいろな数列			
6				
7	第3節 漸化式と数学的帰納法	30	9. 漸化式 10. 数学的帰納法	(a) 確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 (b) 特徴を考察し、様々な視点からとらえることができる。 (c) 確率分布について積極的に考察しようとする。
8				
9	第2章 統計的な推測		1. 確率変数と確率分布	
10	第1節 確率分布		2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	
11				
12	第2節 統計的な推測	15	6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	(a) 用語や求め方を理解し、適切に活用することができる。 (b) 確率分布など理解し、考察することができる。 (c) 様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。
1				
2				

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	生物基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1年・全クラス
使用教科書	生物基礎 (数研出版)				
補助教材等	リードLightノート 生物基礎 (数研出版)				

1 学習の到達目標

- ・生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り身に付けることを目指す。
- (1) 日常生活や社旗との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 高校では、中学校までの「理科」という科目から、より分野ごとの深い学習のために分野ごとの科目で学習をしていきます。「生物基礎」では、みなさん自身も生物の一員であるということを意識することで、興味・関心をもって欲しいと思っています。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 科学的にものごとをとらえようとする場合には、あるやり方に基づいて研究していく必要があります。実験の手順や、顕微鏡を用いた探究の技術についての意識も高めてください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
主な評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・ペーパーテスト (主体的に学習に取り組む態度に基づく学習の継続と改善がどのように成果に現れているか) ・授業中の発言内容や行動観察 ・実験に取り組む姿勢 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章 生物の特徴	20	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることをみいだして理解する。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。 ・生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。また、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。 	<p>生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解している。生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解している。(a)</p> <p>生命活動にエネルギーが必要であることを理解している。光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解している。(a)</p>
5	第2章 遺伝子とその働き	20	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解する。 	<p>遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を理解するとともに、塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解している。(a)</p> <p>生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現できる。(第1・2章共通) (b)</p>
7	第3章 ヒトの体内環境の維持	32	<ul style="list-style-type: none"> ・体の調節に関する観察、実験などを通して、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解する。 ・体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解する。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。 ・免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。 	<p>体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解している。(a)</p> <p>体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を理解している。(a)</p> <p>異物を排除する防御機構が備わっていることを理解している。(a)</p> <p>ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系や内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現できる。(b)</p>
8				
9				
10				
11				

12	第4章 生物の多様性と生態系	1 2 18	<p>・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解する。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解する。</p> <p>・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを通して、生態系における生物の種多様性を見いだして理解する。また、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解する。</p> <p>・生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。また、生態系の保全の重要性を認識する。</p>	<p>植生の遷移の要因を理解する。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解している。(a)</p> <p>生態系における生物の種多様性を理解する。また、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解している。(a)</p> <p>生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解している。また、生態系の保全の重要性を認識している。(a)</p> <p>生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現できる。(b)</p>
----	-------------------	--------------	---	--

教科名	理科	科目名	科学と人間生活	2 単位
使用教科書	数研出版 新科学と人間生活			
補助教材等	数研出版 科学と人間生活 準拠サポートノート			

1 学習の到達目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に対する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに科学に対する興味・関心を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 紹介する動画などで興味をもつとやる気が出ます。
- 予習や復習をして、興味をもって授業に臨むと学習効果が上がります。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的态度を身に付けている。
主な評価方法	中間考査、期末考査を行う。評価基準点に達しない場合は追指導をする 通常授業内のプリントの提出状況を成績に反映させる。 参加態度、出欠席や遅刻早退の状況を中心に考慮する。 レポートの結果や考察・感想の的確さを点数化して評価します。		

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	学 習 内 容	時 数	評 価 標 準
4	科学技術の発展 物質の科学 金属、プラスチックとその再利用 医療と食品	身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質および用途と資源の再利用について理解すること。 身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について理解すること		学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
5			20	
6				
7				

8	生命の科学	植物の生育、動物の行動及びヒトの視覚と光とのかかわりについて理解すること。様々な微生物の存在と生態系での働き、微生物と人間生活のかかわりについて理解すること。	20	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
11	熱や光の科学	光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解すること。	20	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。
12		熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について理解すること。		
1	地球や宇宙の科学 太陽系における地球 身近な自然景観と自然災害	太陽や月などの身近にみられる天体と人間生活とのかかわり、太陽系における地球について理解すること。 身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、太陽の放射エネルギーによる作用や地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解すること。	15	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
2				
3				

令和 7 年度 普通 科 シラバス

科目	化学	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2年理系
使用教科書	数研出版 化学				
補助教材等	数研出版 リードLightノート化学				

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・自分の周りにある身近な物質がどんな性質を持っているか興味を持ちながら学習しましょう
- ・化学は物質の性質を調べる学習をします。まず、物質の名前の基本である元素記号、化学式、イオンを正確に覚えることから始めましょう。また、化学で使う計算は比例計算がほとんどです。割り切れる値ばかりではないので、基本的な四則計算は間違えないようにしましょう。
- ・理系希望者は必修科目です。3年時に継続して学びます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けていく。観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの科過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
主な評価方法	・ペーパーテスト	・ペーパーテスト ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・プリントの提出状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4					
5					
6					
7					
8					
9	第 1 編 物質の状態 第 1 章 固体の構造			・結晶の構造とその種類について理解する。 ・物質の状態とその変化について、分子間にはたらく力と関連付けて理解する	・結晶の構造とその種類について理解する。
10	第 2 章 物質の状態変化	65		・蒸気圧について学習し、気体の圧力や沸騰が起こるしくみについて理解する。・気体の圧力、温度、体積について、ボイル・シャルルの法則を通して理解し、気体の状態方程式を用いて、分子量などを求める。	・物質の状態とその変化について、分子間にはたらく力と関連付けて理解する
11	第 3 章 気体 第 4 章 溶液			・溶解のしくみについて確認する。 ・物質が溶解する量には限界があり、溶解度を理解する。 ・溶液の性質には、沸点上昇、凝固点降下があることを理解する	・蒸気圧について学習し、気体の
12					
1					
2					

科 目	物理基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2 年理系
使用教科書	改訂版 新編 物理基礎 数研出版				
補助教材等	新ゼミナール物理基礎 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

- 物理現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。
- 物理的な事物・事象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を深める。
- 科学的な自然観を育成する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 授業で扱った内容と身の回りの色々な現象を関連付けて見ていくと理解が深まると同時に、興味や関心を持つきっかけとなります。自身でも積極的に調べるなどしてみてください。
- 計算が多くなります。めんどくさがらずに取り組むようにしましょう。
- 予習をして授業に臨むと学習効果が上がります。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けていく。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的态度を身に付けている。
主な評価方法	中間考査、期末考査を行う。評価基準点に達しない場合指導する 通常授業内のプリントの提出状況を成績に反映させる。 参加態度、出欠席や遅刻早退の状況を中心に考慮する。 レポートの結果や考察・感想の的確さを点数化して評価します。		

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4		12	・等速運動、等加速度運動の学習を通して運動の表し方について理解する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
5		12	・運動の法則、および仕事と力学的エネルギーとの関係について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
6		12	・運動の法則、および仕事と力学的エネルギーとの関係について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
7	第1編 運動とエネルギー	12	・運動の法則、および仕事と力学的エネルギーとの関係について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
8		8	・運動の法則、および仕事と力学的エネルギーとの関係について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
9		12	・熱に関する基本事項、および熱とエネルギーとの関係について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
10	第2編 热	12	・熱に関する基本事項、および熱とエネルギーとの関係について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
11		12	・波に関する基本事項、および波の特徴について学習する。 ・音波の特徴的な基本的性質について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
12	第3編 波動	12	・電気の性質、電流と電気抵抗との関係、電流と磁場との関係などについて学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
1		12	・電気の性質、電流と電気抵抗との関係、電流と磁場との関係などについて学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
2	第4編 電気	12	・社会におけるエネルギー利用について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)
3	第5編 物理学と社会	2	・社会におけるエネルギー利用について学習する。	学習内容を身に着けることができたか。 説明をすることができるか。 例題を理解することができるか。 現象を理解し、実験に興味を持てたか。 (a) (b) (c)

科 目	地学基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2年文系
使用教科書	数研出版 高等学校 地学基礎				
補助教材等	ビジュアルプラス 地学基礎ノート				

1 学習の到達目標

宇宙の137億年の歴史や惑星、気象、海洋、生命、そして固体地球の46億年にわたってくり広げられてきた現象と歴史を学ぶ。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

常日頃から、ネット上やマスコミに出る地球科学や宇宙、および環境に関するニュースをチェックするようにしてください。地学基礎を学ぶにつれ、それらニュースを深く理解できるようになっていき、地学の面白さを実感できるようになっていきます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けていく。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
主な評価方法	中間考查、期末考查を行う。評価基準点に達しない場合は単位認定を行わない。	レポートの結果や考察・感想の的確さを点数化して評価する。	主に討論や意見発表を行う授業の際の積極性で評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造	20	地球の形と大きさの測定のしかた、 地球内部の層構造を理解する。地震と火山の仕組みをプレート運動と絡めて総合的に理解する。	「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」30%
5	第2章 プレートの運動			
6	第3章 地震			
7	第4章 火山			
7	第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成	32	地球環境と古生物は互いに影響を及ぼしあって変遷し、現在の姿があることを理解する。その学びの中で、時間の長さを感覚的にとらえる。	「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」30%
8	第2章 古生物の変遷と 地球環境			
9	第3編 大気と海洋			
10	第1章 地球の熱収支			
11	第2章 大気と海洋の 運動			
12	第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と 日本の自然環境	18	地球を構成する大気、海洋、固体地球、生物の間には絶えず相互作用があることを学ぶ。	「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」30%
1				
2	第5編 太陽系と宇宙 第1章 太陽系と太陽		宇宙に存在する天体や宇宙の構造に関する知識を学ぶ。	
	第2章 宇宙の誕生			

科 目	化学	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 年・理系
使用教科書	数研出版 化学				
補助教材等	数研出版 リードLightノート化学				

1 学習の到達目標

化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・自分の周りにある身近な物質がどんな性質を持っているか興味を持ちながら学習しましょう
- ・化学は物質の性質を調べる学習をします。まず、物質の名前の基本である元素記号、化学式、イオンを正確に覚えることから始めましょう。また、化学で使う計算は比例計算がほとんどです。割り切れる値ばかりではないので、基本的な四則計算は間違えないようにしましょう。
- ・理系希望者は必修科目です。2年時から継続して学びます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能が身に付いている。	観察、実験などを通して、化学的に探究する力が見に付いている。	化学的な事物・現象に主体的にかかり、科学的に探究しようとする態度が見に付いている。
主な評価方法	・ペーパーテスト (事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題) の結果	・ペーパーテスト ・レポート記述内容 ・グループでの話合いや発表などの場面での観察	・ペーパーテスト (学習の継続と改善がどのように成果に現れているか) ・授業中の発言内容や行動観察 ・実験に取り組む姿勢 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第 2 編 物質の変化 第 2 章 電池と電気分解		・電気エネルギーを取り出す電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解する。	電気エネルギーを取り出す電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解している。(a)

		<ul style="list-style-type: none"> 外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、酸化還元反応と関連付けて理解する。また、その反応に関与した物質の変化量との関係を理解する。 反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。 可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。 水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解する。 	外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、酸化還元反応と関連付けて理解している。また、その反応に関与した物質の変化量との関係を理解している。(a) 反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解している。(a) 可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解している。(a) 水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解している。(a) 物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現することができる。(b)
5	第3章 化学反応の速さとしくみ 第4章 化学平衡	30	<ul style="list-style-type: none"> 非金属元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解する。
6	第3編 無機物質 第1章 非金属元素		<ul style="list-style-type: none"> 非金属元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解する。
7	第2章 金属元素 (I)		<ul style="list-style-type: none"> 典型元素に関する実験などをを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解する。
8			典型元素に関する実験などを身に付けている。典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解している。(a)
9	第3章 金属元素 (II)		<ul style="list-style-type: none"> 遷移元素の単体と化合物の性質を理解する。
10	第4編 有機化合物	48	遷移元素の単体と化合物の性質を理解している。(a) 無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。(第2章、第3章)(b) 脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 官能基をもつ脂肪族炭化水素に関する実験などを行い、その

11		<p>構造、性質及び反応について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。 	<p>いる。官能基をもつ脂肪族炭化水素の構造、性質及び反応について理解している。(a)</p> <p>芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解している。(a)</p> <p>有機化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。(b)</p>
12 1 2 27	第5編 高分子化合物	<ul style="list-style-type: none"> ・合成高分子化合物の構造、性質及び反応について理解する。 ・天然高分子化合物の構造、性質及び反応について理解する。 ・化学が果たしてきた役割として、無機物質、有機化合物及び高分子化合物がそれぞれの特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解する。 ・化学の成果が様々な分野で利用され、未来を築く新しい科学技術の基盤となっていることを理解する。 	<p>合成高分子化合物の構造、性質及び反応について理解している。(a)</p> <p>天然高分子化合物の構造、性質及び反応について理解している。(a)</p> <p>高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。(b)</p> <p>化学が果たしてきた役割として、無機物質、有機化合物及び高分子化合物がそれぞれの特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解している。(a)</p> <p>化学の成果が様々な分野で利用され、未来を築く新しい科学技術の基盤となっていることを理解している。(a)</p> <p>人間生活の中の化学について、これからの社会における化学が果たす役割を科学的に考察し、表現することができる。(b)</p>

科 目	体育	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	1年商業科・普通科
使用教科書	現代高等保健体育 (大修館書店・保体701)				
補助教材等	現代高等保健体育ノートまたは授業担当者が作成したプリント及び資料				

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働きかせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るために資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 運動が得意・不得意、できる・できないではなく、運動そのものの楽しさや喜びを学ぶるよう、日々の授業に取り組んでください。
 ○個人競技の運動に関しては、なぜできないのか?どうしたら上手くなれるのか?といった、自らの課題にしっかりと向き合い考えながら取り組んでください。その際に、教員からのアドバイスや助言を真摯に受け止め、取り組んでください。
 ○チーム競技の運動に関しても、上手になったり勝てるようになったりするために、個人課題のみならずチーム課題も解決していく必要があります。そこで、積極的に仲間同士で考えたことを伝えあったり話し合ったりしていき、チーム全体で技能を身に着けていけるように取り組んでいきましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解している。	・個人やチームの課題を発見し、適切な課題設定ができている。 ・課題解決をする際に、授業を通して学んだ知識や技能を活用することができる。 ・チームをよりよくしていくために、考えたことを発表したり表現したりしている。	・仲間と積極的に関わろうとしている。 ・意欲的に取り組もうとしている。
主な評価方法	・技能テスト	・チーム内での話し合い、作戦を立てたりする課題解決の場面を設定し、観察において評価する ・ワークシートの内容	・日常の授業へ取り組む姿勢 ・出欠状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	体つくり運動 球技 ・ベースボール型 ・ネット型	4 26	・新体力テスト ・自分の運動能力や体力を理解する。 ・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことによる楽しさや喜びを味わう。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	・体力テストの内容及び行い方を理解している。(a) ・安全に配慮して取り組むことができている。(a) ・自分の記録を超えようと挑戦している。(b)(c) ・基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) ・バット操作とボール操作、連携した守備などによって攻防をする。(a) ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) ・球技に自動的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている。(c)
5				
6				
7	水泳・体育理論	16	・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどの基本的な泳法を身に着け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わう ・体育理論は2単元「運動・スポーツの学び方」	【水泳】 ・基本的な泳法や安全面への配慮を理解している。(a) ・泳法などの自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。(b)
8				
9				
10	陸上競技（長距離走・ロード）	14	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方を理解する。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムの短縮に向けて挑戦する。	・記録向上のため、自らやや高いペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりする。(a)(c)
11	球技 ・ネット型 ・ゴール型	30	・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことによる楽しさや喜びを味わう。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	・基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) ・球技に自動的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている。(c)

12	球技 ・ネット型 ・ゴール型	15	<p>・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことによる楽しさや喜びを味わう。</p> <p>・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを開拓する。</p> <p>・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。</p>	<p>・基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a)</p> <p>・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a)</p> <p>・攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b)</p> <p>・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること、互いに助け合い教え合おうとしている(c)</p>
1				
2				

科 目	保健	単位数	1	履修学年・クラス (講座)	1年商業・普通科
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店・保体701）				
補助教材等	現代高等保健体育ノートまたは授業担当者が作成したプリント及び資料				

1 学習の到達目標

保健の見方・考え方を働きかせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○授業中は、電子黒板と板書を活用し、画像や動画を見ながら視覚的に理解しやすいように工夫する。
 ○グループワークを通して、健康についての自他や社会の課題を発見したり、考えたりしながら仲間と一緒に学びを深めていく授業を行う。
 ○ICT機器（chromebook等）を活用し、生徒主体の授業を展開するとともに、生涯を通じて健康でよりよく生きていこうためにどうするべきなのかを考えたり、理解を深めたりしていく授業を行う。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・生涯を通じて自他の健康の保持増進を図るためにや課題解決を図るために必要な知識を理解している	・自他や社会の課題解決に向けて、学んだ知識を活用し考え、自分なりの答えを持つことができる。 ・自己の考えたことを仲間と共有し学びを深めることができる。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進のために積極的に学びに取り組もうとしている。
主な評価方法	・学期ごとのペーパーテスト ・単元ごとのレポートにおける一般的な知識の理解度・習熟度	・学期ごとのペーパーテストまたは単元ごとに配布されるレポートにおいて、健康に関する課題解決に向けて自分の考えを記述しているか ・授業におけるグループでの話し合い・発表・プレゼンに向けてスライドの制作 等	・保健ノート ・授業中の発言

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康の姿		健康の考え方やわが国の健康水準が変化していること及びその背景について理解し、これからの自分の健康について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを書いたり書いたりしている。(a) ・健康の考え方について、健康に関する原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。(b) ・健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。(c)
5	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	10	生活習慣病とがんの原因について理解する。また、予防をしていくためには若いころからの運動や食事、睡眠などの個人的対策が必要であること及びがん検診などの社会的な対策を積極的に活用していくことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病などの予防と回復には、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて、理解したことを書いたり書いたりしている。(a) ・生活習慣病などの予防と回復について、健康に関する原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。(b)
6	がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康			
7	喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康		喫煙や飲酒の身体への影響を理解すること。また薬物の心身の健康に悪影響をもたらすことを理解する。それぞれの対策について、個人及び社会に分けて説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを書いたり書いたりしている。(a) ・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを書いたり書いたりしている。(a) ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。(b)
8				
9	精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復	15	現代社会において、増加している精神疾患の特徴や課題を理解し、予防の観点から自身の実生活に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを書いたり書いたりしている。(a) ・精神疾患の予防と回復について、健康に関する原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。(b)
10	現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防		感染症の歴史から、今後の感染症との共生を探る。また、感染症を防ぐためには、感染経路を理解したうえで予防策を考えいく。 性感染症やエイズにおいて、高校生の段階でも感染する恐れがあることから、原因及び予防について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症のリスクを軽減し予防するには、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のため対策について理解したことを書いたり書いたりし

			<p>（いの。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述する。
12	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全	10	<p>わが国の交通事故の現状と発生要因を理解する。また、交通事故を未然に防ぐために、個人や社会全体で安全への配慮を心掛けていく必要があることを理解する。</p> <p>・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。（b）</p> <p>・安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。◎</p>
2	応急手当とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	10	<p>わが国の、心肺停止からの生存率は諸外国に比べて低く、その要因としては応急手当や心肺蘇生法等の仕方が理解できていない現状である。そのため、講義と実技を交えながら応急手当や心肺蘇生法の仕方を身につける。</p> <p>ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくりの特徴について説明する。</p> <p>・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。（b）</p> <p>・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。（b）</p> <p>・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。（b）</p>

科 目	体育	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2年商業科・普通科
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店・保体701）				
補助教材等	現代高等保健体育ノートまたは授業担当者が作成したプリント及び資料				

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るために資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 運動が得意・不得意、できる・できないではなく、運動そのものの楽しさや喜びを学べるように、日々の授業に取り組んでください。
- 個人競技の運動に関しては、なぜできないのか？どうしたら上手くなれるのか？といった、自らの課題にしっかりと向き合い考えながら取り組んでください。その際に、教員からのアドバイスや助言を真摯に受け止め、取り組んでください。
- チーム競技の運動に関しては、上手になつたり勝てるようになつたりするためには、個人課題のみならずチーム課題も解決していく必要があります。そこで、積極的に仲間同士で考えたことを伝えあつたり話し合つたりしていき、チーム全体で技能を身に着けていくように取り組んでいきましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解している。	・個人やチームの課題を発見し、適切な課題設定ができている。 ・課題解決をする際に、授業を通して学んだ知識や技能を活用することができる。 ・チームをよりよくしていくために、考えたことを発表したり表現したりしている。	・仲間と積極的に関わろうとしている。 ・意欲的に取り組もうとしている。
主な評価方法	・技能テスト	・チーム内での話し合い、作戦を立てたりする課題解決の場面を設定し、観察において評価する ・ワークシートの内容	・日常の授業へ取り組む姿勢 ・出欠状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	体づくり運動 球技 ・ベースボール型 ・ネット型	4 16	・新体力テスト ・自分の運動能力や体力を理解する。 ・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことによる楽しさや喜びを味わう。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	・体力テストの内容及び行い方を理解している。(a) ・安全に配慮して取り組むことができている。(a) ・自分の記録を超えようと挑戦している。(b)(c) ・基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) ・バット操作とボール操作、連携した守備などによって攻防をする。(a) ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている。(c)
5				
6				
7	水泳・体育理論	14	・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどの基本的な泳法を身に着け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わう ・体育理論は2単元「運動・スポーツの学び方」	【水泳】 ・基本的な泳法や安全面への配慮を理解している。(a) ・泳法などの自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。(b) 【体育理論】 ・運動やスポーツの学び方についての知識を正しく習得している(a) ・自分の能力や生活に応じた運動の仕方を考えることが出来る(b) ・自らの運動能力を高めるための知識得ることへの積極性がみられる(c) ・記録向上のため、自らやや高いペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりする。(a)◎
8				
9				
10	陸上競技（長距離走・ロード）	8	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方を理解する。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムの短縮に向けて挑戦する。	・記録向上のため、自らやや高いペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりする。(a)(c)
11	球技 ・ネット型 ・ゴール型	14	・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことによる楽しさや喜びを味わう。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを	・基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアな

			他者に伝える。	プレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている。(c)
12	球技 ・ネット型 ・ゴール型 1 2	14	<ul style="list-style-type: none"> 個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わう。 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている(c)

科 目	保健	単位数	1	履修学年・クラス (講座)	1年商業・普通科
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店・保体701）				
補助教材等	現代高等保健体育ノートまたは授業担当者が作成したプリント及び資料				

1 学習の到達目標

保健の見方・考え方を働きかせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○授業中は、電子黒板と板書を活用し、画像や動画を見ながら視覚的に理解しやすいように工夫する。
 ○グループワークを通して、健康についての自他や社会の課題を発見したり、考えたりしながら仲間と一緒に学びを深めていく授業を行う。
 ○ICT機器（chromebook等）を活用し、生徒主体の授業を展開するとともに、生涯を通じて健康でよりよく生きていこうためにどうするべきなのかを考えたり、理解を深めたりしていく授業を行う。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・生涯を通じて自他の健康の保持増進を図るためにや課題解決を図るために必要な知識を理解している	・自他や社会の課題解決に向けて、学んだ知識を活用し考え、自分なりの答えを持つことができる。 ・自己の考えたことを仲間と共有し学びを深めることができる。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進のために積極的に学びに取り組もうとしている。
主な評価方法	・学期ごとのペーパーテスト ・単元ごとのレポートにおける一般的な知識の理解度・習熟度	・学期ごとのペーパーテストまたは単元ごとに配布されるレポートにおいて、健康に関する課題解決に向けて自分の考えを記述しているか ・授業におけるグループでの話し合い・発表・プレゼンに向けてスライドの制作 等	・保健ノート ・授業中の発言

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	●ライフステージと健康 ●思春期と健康 ●性意識と性行動の選択		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージという考え方 ・ライフステージと死亡率の関係 ・各ライフステージの特徴的な健康課題 ・各ライフステージにおける公的支援 ・女性の体と思春期 ・男性の体と思春期 ・思春期と心の発達 ・思春期の健康課題 ・性意識の男女差 ・気持ちなどの尊重 ・身の回りにあふれる性情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康とは何かに関しては1単元で学んできたが、改めて考えてみる(b) ・ライフステージと健康課題の関連を理解する(a) ・性機能は発達段階にあるということを気付かせる(b) ・十分な栄養が性機能の成熟に欠かせないことを理解させる(a) ・自身の変化を客観的に考えさせる(b) ・思春期で気をつけることを具体的に1つに絞って考える(b) ・二 次 性 徴 に 気 づ か せ 、 ホ ル モ ル の 動 き に よ り 体 つ き に 变 化 が み ら れ る 、 性 に 関 す る 意 識 や 行 動 が 变 わ る こ と を 確 認 す る (a) ・すべての人が、差別を受けることなく尊重されなければならないことを理解する(b) ・実際に得ている性情報を挙げさせ、誤っている情報も多いことに気づかせる(a) ・性に関する望ましい意思決定・行動選択への意欲を持つ(c)
5	●妊娠・出産と健康	10	<ul style="list-style-type: none"> ・受精と妊娠 ・出産と母体の回復 ・妊娠・出産のしやすさと年齢 ・母子保健サービスの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの知識で妊娠に気づく体の状態について考えさせる(a) ・身体面だけでなく心理面も変化することを理解させる。夫や家族、周囲からの支援が必要なことを確認する(b) ・妊娠・出産期を健康に過ごすためへの意欲を持つ(c)
6	●避妊法と人工妊娠中絶 ●結婚生活と健康		<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画とは ・避妊法とその選択 ・人工妊娠中絶 ・体の発達と結婚生活 ・心の発達と結婚生活 ・結婚生活と家族の健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族計画の考え方を理解している(a) ・自分の将来や人生設計について改めて考えてみることで、本時の学習を自分事としてとらえ、進んで学習に取り組んでいるか(c) ・人工妊娠中絶について、法的に認められている期間の理由を自分なりに予想して考えることが出来る(b) ・結婚の法的条件について理解する(a) ・生涯にわたり良好な結婚生活を送ることを目指して、進んで学習に参加している(c) ・結婚と心身の健康の関係について理解する ・結婚生活を健康に送るために必要なことを考え、挙げることが出来る(b)

7	<p>●中高年期と健康</p> <p>●働くことと健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高年期における心身の変化 ・中高年期の健康 ・高齢者の健康を支える取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う心身の変化について考え、発表することが出来る(a) ・中高年期の健康は、若い頃からの生活習慣が大きく影響することを理解できたか(a) ・健康寿命の概念について理解できたか(a) <ul style="list-style-type: none"> ・働くことはお金のためだけではなく、自己実現や生きがいに繋がることを理解できたか(a) ・今後の自らの人生のワーク・ライフバランスについて考え、発表したり、友人と考えを共有することができる(b) ・働き方の変化や多様化により、生活習慣病やストレスによる精神疾患が問題となってきていることを理解できたか(a)
8	<p>●労働災害と健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害とその要因 ・労働災害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害とその発生因子について理解できたか(a) ・労働災害を防止するための安全管理と健康管理について理解できたか(a) ・事例をもとに、どのような労働災害の防止策を講じるべきかを考え、発表したり、友人と意見を交換することができる(b)
9	<p>●健康的な職業生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職場における健康増進活動 ・メンタルヘルスケア ・ハラスメント対策 ・多様な働き方や生き方への支援 ・余暇の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・トータルヘルスプロモーションプランの概念と、それに基づいた取り組みについて理解できたか(a) ・現代の職場におけるメンタルヘルスケアやハラスメント対策の重要性について理解できたか(a) ・自分の将来の働き方について考え、発表したり、友人と意見を交換することができたか(b)
10	<p>●大気汚染と健康</p> <p>●水質汚濁、土壤汚染と健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因 ・大気汚染の健康への影響 ・大気に関わる地球規模の問題 <ul style="list-style-type: none"> ・水質汚濁とその健康影響 ・土壤汚染とその健康影響 ・大気汚染、水質汚濁、土壤汚染の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染物質の発生源や名称、その物質による身体への影響について、関連付けて理解できたか(a)
			<ul style="list-style-type: none"> ・大気の問題は国を越えた問題であり、地球規模の対策が必要であることを理解できたか(a)
			<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化がもたらす様々な影響について
			<ul style="list-style-type: none"> ・かつてと現在の水質汚濁、土壤汚染の原因の変化について理解できたか。
			<ul style="list-style-type: none"> ・おもな水質汚濁、土壤汚染の原因物質とその健康影響について理解できたか。
			<ul style="list-style-type: none"> ・大気、水質、土壤それぞれの汚染の関わりについて考え、発表したり、友人と意見を交換することができたか(b)
			<ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染に対する個人的対策について考え、発表したり、友人と意見を交換することができたか(b)
			<ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染に対する法整備を含めた社会的対策について理解できたか(a)
			<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の処理方法や不法投棄についての理解が出来たか(a)

●ごみの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の実際 ・ごみの処理の課題と対策 ・安全で良質な水の確保	・ごみの処理の現状と課題について理解できたか(a) ・自分の生活の中で3Rを実施していくにはどのようなことが出来るか考え、発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) ・安全な水の確保のためには上下水道の整備が関わっていることを理解できたか(a)
----------------	--	---

12 ●食品の安全性 1 ●食品衛生にかかわる活動 2 ●保健サービスとその活用 10 ●医療サービスとその活用 ●医薬品の制度とその活用 ●様々な保健活動や社会的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と健康 ・食中毒 ・食品添加物、輸入食品 ・食物アレルギー <ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性の確保 ・食品の安全と私たちの役割 <ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の役割 ・保健サービスの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・医療の供給と医療保険 ・医療機関と医療サービスの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の種類と使用法 ・医薬品の副作用と安全性を守る取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・国際機関の保健活動 ・民間機関の保健活動 ・自治体や行政機関による社会的対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの人生で、食品が原因でお腹を壊したりといった経験について発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) ・食物アレルギーの原因となる物質について考え、友人と意見を交換し、覚えることが出来たか(a)(b) <ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づく行政の役割について理解できたか(a) ・HACCPの概念について理解できたか(a) ・安全な食品を選ぶために注意すべきことについて考え、発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) ・消費期限と賞味期限の違いについて理解できたか(a) <ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の仕組みや機関について理解できたか(a) ・これまでの人生で受けてきた保健サービスや、利用したことのある保健機関について発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険の仕組みについて理解できたか(a) ・これまでの人生で受けてきた医療サービスや、利用したことのある医療機関について発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) ・医療サービスを受けるにあたって持っておくべき知識について理解できたか(a) <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の種類と使用法について理解できたか(a) ・医薬品の副作用について理解できたか(a) ・過去の薬害の例から、どのようにすれば薬害を防止できるか考え、意見を交換した上で、実際に行われている社会的対策について理解できたか(a)(b) <ul style="list-style-type: none"> ・国際機関、民間機関それぞれの保健活動について知り、その違いについても理解できたか(a)
		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの人生で、食品が原因でお腹を壊したりといった経験について発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) ・食物アレルギーの原因となる物質について考え、友人と意見を交換し、覚えることが出来たか(a)(b)
		<ul style="list-style-type: none"> ・法律に基づく行政の役割について理解できたか(a) ・HACCPの概念について理解できたか(a) ・安全な食品を選ぶために注意すべきことについて考え、発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) ・消費期限と賞味期限の違いについて理解できたか(a)
		<ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の仕組みや機関について理解できたか(a) ・これまでの人生で受けてきた保健サービスや、利用したことのある保健機関について発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b)
		<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険の仕組みについて理解できたか(a) ・これまでの人生で受けてきた医療サービスや、利用したことのある医療機関について発表したり、友人と意見を交換することが出来たか(b) ・医療サービスを受けるにあたって持っておくべき知識について理解できたか(a)
		<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の種類と使用法について理解できたか(a) ・医薬品の副作用について理解できたか(a) ・過去の薬害の例から、どのようにすれば薬害を防止できるか考え、意見を交換した上で、実際に行われている社会的対策について理解できたか(a)(b)

科 目	体育	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年商業科・普通科
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店・保体701）				
補助教材等	現代高等保健体育ノートまたは授業担当者が作成したプリント及び資料				

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るために資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 運動が得意・不得意、できる・できないではなく、運動そのものの楽しさや喜びを学べるように、日々の授業に取り組んでください。
- 個人競技の運動に関しては、なぜできないのか？どうしたら上手くなれるのか？といった、自らの課題にしっかりと向き合い考えながら取り組んでください。その際に、教員からのアドバイスや助言を真摯に受け止め、取り組んでください。
- チーム競技の運動に関しては、上手になつたり勝てるようになつたりするためには、個人課題のみならずチーム課題も解決していく必要があります。そこで、積極的に仲間同士で考えたことを伝えあつたり話し合つたりしていき、チーム全体で技能を身に着けていくように取り組んでいきましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解している。	・個人やチームの課題を発見し、適切な課題設定ができている。 ・課題解決をする際に、授業を通して学んだ知識や技能を活用することができる。 ・チームをよりよくしていくために、考えたことを発表したり表現したりしている。	・仲間と積極的に関わろうとしている。 ・意欲的に取り組もうとしている。
主な評価方法	・技能テスト	・チーム内での話し合い、作戦を立てたりする課題解決の場面を設定し、観察において評価する ・ワークシートの内容	・日常の授業へ取り組む姿勢 ・出欠状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	体づくり運動 球技 ・ベースボール型 ・ネット型	4 26	・新体力テスト ・自分の運動能力や体力を理解する。 ・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことによる楽しさや喜びを味わう。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	・体力テストの内容及び行い方を理解している。(a) ・安全に配慮して取り組むことができている。(a) ・自分の記録を超えようと挑戦している。(b)(c) ・基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) ・バット操作とボール操作、連携した守備などによって攻防をする。(a) ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている。(c)
5				
6				
7	水泳・体育理論	16	・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどの基本的な泳法を身に着け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わう ・体育理論は2単元「運動・スポーツの学び方」	【水泳】 ・基本的な泳法や安全面への配慮を理解している。(a) ・泳法などの自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。(b) 【体育理論】 ・運動やスポーツの学び方についての知識を正しく習得している(a) ・自分の能力や生活に応じた運動の仕方を考えることが出来る(b) ・自らの運動能力を高めるための知識得ることへの積極性がみられる(c) ・記録向上のため、自らやや高いペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりする。(a)◎
8				
9				
10	陸上競技（長距離走・ロード）	14	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方を理解する。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムの短縮に向けて挑戦する。	・記録向上のため、自らやや高いペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりする。(a)(c)
11	球技 ・ネット型 ・ゴール型	30	・個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことによる楽しさや喜びを味わう。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを	・基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアな

			他者に伝える。	プレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている。(c)
12	球技 ・ネット型 ・ゴール型 1 2	15	<ul style="list-style-type: none"> 個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わう。 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な練習や試合の仕方を理解している。(a) 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をしている。(a) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(b) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること互いに助け合い教え合おうとしている(c)

令和 7 年度		1 学年	普通	科					
教科名	美術	科目名	美術 I		2 単位				
		担当者	大矢 長門						
1. 学習目標									
美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。									
2. 使用教材等									
・教科書名 美術1 光村図書									
・副教材名									
3. 学習項目 (学習内容)									
学期	月	単元	学習内容	時間数	考查				
1	4	観察と再現	鉛筆デッサン 石膏像デッサン、形態、質感、光の濃淡を、様々な角度から観察しながら、デッサンの基礎を体験する	8					
	5		透視図法を使った風景画 1・2・3点透視図法を学び、シアン・マゼンタ・イエローを使って着彩する	17					
2	8	レタリング	文字の書体について学ぶ 書体による印象の違いと文字の持つ表現力について学習する	17					
	9		デザインの制作 色彩の基礎と配色、文字についての理解を深めることを目的に自分のイメージを色彩と形に置き換えたデザインを制作する	13					
3	10	視覚伝達デザイン	西洋美術、日本美術から現代美術を選び、その作家が生きた時代や文化、表現方法の特徴・思想等多角的に研究する。						
	11		その上で、作家についてKP法（紙芝居プレゼン）でプレゼンを行う。	15					
4. 評価の観点									
①知識・技能		創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。							
②思考・判断・表現		感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練り、美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。							
③主体的に学習に取り組む態度		美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている							
5. 評価の方法									
・課題： 単元ごとの作品、クロッキー帳									
・授業態度： 授業に取り組む姿勢、出欠状況、道具の準備、片付け									
6. 学習にあたっての注意とアドバイス									
・定期考査はありません。単元ごとの作品・提出物、授業態度(出欠状況含む) から総合的に評価します。 ・自分なりに工夫して制作に取り組む姿勢を期待します。 ・毎回の制作後には、受講している生徒同士で作品を観た感想を文章にして、全員の作品を鑑賞していきます。									

令和 7 年度			1 学年	普通 科						
教科名	芸術	科目名	音楽 I		2 単位					
		担当者	松井 深之							
1. 学習目標										
歌唱、器楽、鑑賞等の幅広い活動を通して、我が国及び諸外国の様々な音楽に触れ、感性を働かせ、音や音楽を形作っている要素を捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景とを関連付けることで、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。このことで音楽文化を継承・発展、創造することにつなげ、音楽を愛好し豊かな人間性や社会性を養う。										
2. 使用教材等										
・教科書名 ON ! 1 (音楽之友社)										
・副教材名										
3. 学習項目 (学習内容)										
学期	月	単元	学習内容	時間数	考查					
1	4	①今月の歌 ②歌唱：ドイツ・リート ③楽典	①校歌、翼をください ②春への憧れ（1部原語） ③音符とリズム	10	歌唱実技 テスト					
		①今月の歌 ②歌唱：ドイツ・リートと カンツォーネ ③楽典	①空もとべるはすおおシャンゼリゼ ②野ばら（1部原語） オー・ソレ・ミオ（原語） ③音名							
	6	①今月の歌 ②歌唱：カンツォーネと イタリア古典歌曲の歌唱 ③楽典	①おおシャンゼリゼ ②オー・ソレ・ミオ（原語） Caro mio ben（原語） ③強弱記号	10						
	7	①今月の歌 ②鑑賞：ミュージカル ③楽典	①エーテルワイス ②「サウンド・オブ・ミュージック」 ③表情記号							
2	8	①今月の歌 ②鑑賞：ミュージカル	①エーテルワイス ②「サウンド・オブ・ミュージック」	14	期末考査で 筆記テスト					
		①今月の歌 ②歌唱：ミュージカル・ナンバー ③楽典	①少年時代 ②「サウンド・オブ・ミュージック」 ③音楽用語							
	10	①今月の歌 ②歌唱：合唱 ③鑑賞：音楽史	①赤とんぼ ②合唱曲「聞こえる」or「心の瞳」 ③西洋音楽史概説	14						
	11	①今月の歌 ②歌唱：合唱 ③鑑賞：音楽史	①A Whole New World ②合唱曲「聞こえる」or「心の瞳」 ③西洋音楽史「中世から古典派」							
	12	①今月の歌 ②器楽：アンサンブル	①クリスマス・ソング ②リコーダーorキーボードアンサンブル	12						
3	1	①今月の歌 ②器楽：アンサンブル	①ダニー・ボーイ ②リコーダーorキーボードアンサンブル	12	器楽（実技） テスト					
		①今月の歌 ②器楽：アンサンブル	①校歌（復習・式典用） ②リコーダーorキーボードアンサンブル							
	3			10						
4. 評価の観点										
①知識・技能		曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりについて理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。								
②思考・判断・表現		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聞くことができるようとする。								
③主体的に学習に取り組む態度		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を豊かなものにしていく態度を養う。								
5. 評価の方法										
・定期考査： 楽典（音楽理論）、授業で取り上げた楽曲の歌詞や用語等、西洋音楽史、ミュージカルなどの知識を理解しているか。										
・授業態度： 実技に積極的に取り組んでいるか。鑑賞等で理解し感じ取ろうとしているか。										
・実技テスト： 楽曲に必要な技術・技能を習得し、表現しているか。協働的に取り組みアンサンブルしているか。										
6. 学習にあたっての注意とアドバイス										
○「歌唱」に関しては、表現に関わる知識や技能を身につけ、個性豊かに創意工夫していこう。上手下手でなく積極的なチャレンジをしよう。										
○「合唱」や「合奏」は、アンサンブル=他者との調和が大切です。音色や演奏法に関わりを楽しみ音によるコミュニケーションを楽しもう。										
○「鑑賞」に関しては、音楽的特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わりを感じながら、それぞれの音楽の良さや素晴らしさを味わおう。										

令和 7 年度			2 学年	商業 科						
教科名	芸術	科目名	音楽 I		2 単位					
		担当者	松井 深之							
1. 学習目標										
歌唱、器楽、鑑賞等の幅広い活動を通して、我が国及び諸外国の様々な音楽に触れ、感性を働かせ、音や音楽を形作っている要素を捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景とを関連付けることで、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。このことで音楽文化を継承・発展、創造することにつなげ、音楽を愛好し豊かな人間性や社会性を養う。										
2. 使用教材等										
・教科書名 ON ! 1 (音楽之友社)										
・副教材名										
3. 学習項目 (学習内容)										
学期	月	単元	学習内容	時間数	考查					
1	4	①今月の歌 ②歌唱：ドイツ・リート ③楽典	①校歌、翼をください ②春への憧れ（1部原語） ③音符とリズム	10	歌唱実技 テスト					
		①今月の歌 ②歌唱：ドイツ・リートと カンツォーネ ③楽典	①空もとべるはすおおシャンゼリゼ ②野ばら（1部原語） オー・ソレ・ミオ（原語） ③音名							
	6	①今月の歌 ②歌唱：カンツォーネと イタリア古典歌曲の歌唱 ③楽典	①おおシャンゼリゼ ②オー・ソレ・ミオ（原語） Caro mio ben（原語） ③強弱記号	10						
	7	①今月の歌 ②鑑賞：ミュージカル ③楽典	①エーテルワイス ②「サウンド・オブ・ミュージック」 ③表情記号							
2	8	①今月の歌 ②鑑賞：ミュージカル	①エーテルワイス ②「サウンド・オブ・ミュージック」	14	期末考査で 筆記テスト					
		①今月の歌 ②歌唱：ミュージカル・ナンバー ③楽典	①少年時代 ②「サウンド・オブ・ミュージック」 ③音楽用語							
	10	①今月の歌 ②歌唱：合唱 ③鑑賞：音楽史	①赤とんぼ ②合唱曲「聞こえる」or「心の瞳」 ③西洋音楽史概説	14						
	11	①今月の歌 ②歌唱：合唱 ③鑑賞：音楽史	①A Whole New World ②合唱曲「聞こえる」or「心の瞳」 ③西洋音楽史「中世から古典派」							
	12	①今月の歌 ②器楽：アンサンブル	①クリスマス・ソング ②リコーダーorキーボードアンサンブル	12						
3	1	①今月の歌 ②器楽：アンサンブル	①ダニー・ボーイ ②リコーダーorキーボードアンサンブル	12	器楽（実技） テスト					
		①今月の歌 ②器楽：アンサンブル	①校歌（復習・式典用） ②リコーダーorキーボードアンサンブル							
	3			10						
4. 評価の観点										
①知識・技能		曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりについて理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。								
②思考・判断・表現		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聞くことができるようとする。								
③主体的に学習に取り組む態度		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を豊かなものにしていく態度を養う。								
5. 評価の方法										
・定期考査： 楽典（音楽理論）、授業で取り上げた楽曲の歌詞や用語等、西洋音楽史、ミュージカルなどの知識を理解しているか。										
・授業態度： 実技に積極的に取り組んでいるか。鑑賞等で理解し感じ取ろうとしているか。										
・実技テスト： 楽曲に必要な技術・技能を習得し、表現しているか。協働的に取り組みアンサンブルしているか。										
6. 学習にあたっての注意とアドバイス										
○「歌唱」に関しては、表現に関わる知識や技能を身につけ、個性豊かに創意工夫していこう。上手下手でなく積極的なチャレンジをしよう。										
○「合唱」や「合奏」は、アンサンブル=他者との調和が大切です。音色や演奏法に関わりを楽しみ音によるコミュニケーションを楽しもう。										
○「鑑賞」に関しては、音楽的特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わりを感じながら、それぞれの音楽の良さや素晴らしさを味わおう。										

令和 7 年度		2 学年	商業 科	
教科名	美術	科目名	美術 I	2 単位
		担当者	大矢 長門	

1. 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2. 使用教材等

・教科書名 美術1 光村図書

・副教材名

3. 学習項目（学習内容）

学期	月	単元	学習内容	時間数	考查
1	4	観察と再現	鉛筆デッサン 石膏像デッサン、形態、質感、光の濃淡を、様々な角度から観察しながら、デッサンの基礎を体験する	5	
	5		透視図法を使った風景画 1・2・3点透視図法を学び、シアン・マゼンタ・イエローを使って着彩する		
2	8	レタリング	文字の書体について学ぶ 書体による印象の違いと文字の持つ表現力について学習する	17	
	9		デザインの制作 色彩の基礎と配色、文字についての理解を深めることを目的に自分のイメージを色彩と形に置き換えたデザインを制作する		
3	10	視覚伝達デザイン	四千人、日本美術家から八千人を選び、その作家が生きた時代や文化、表現方法の特徴・思想等多角的に研究する。	13	
	11		その上で、作家についてKP法（紙芝居プレゼン）でプレゼンを行う。		
3	12	鑑賞と表現	その上で、作家についてKP法（紙芝居プレゼン）でプレゼンを行う。	15	
	1		その上で、作家についてKP法（紙芝居プレゼン）でプレゼンを行う。		
	2		その上で、作家についてKP法（紙芝居プレゼン）でプレゼンを行う。		
	3				

4. 評価の観点

①知識・技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。
②思考・判断・表現	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練り、美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
③主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている

5. 評価の方法

・課題：	単元ごとの作品、クロッキー帳
・授業態度：	授業に取り組む姿勢、出欠状況、道具の準備、片付け

6. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 定期考査はありません。単元ごとの作品・提出物、授業態度(出欠状況含む) から総合的に評価します。
- 自分なりに工夫して制作に取り組む姿勢を期待します。
- 毎回の制作後には、受講している生徒同士で作品を観た感想を文章にして、全員の作品を鑑賞していきます。

科 目	情報 I	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	1 学年普通科
使用教科書	最新情報 I (実教出版)				
補助教材等	最新情報 I 学習ノート、30時間マスターOffice2021 (実教出版) 、 Pythonで学ぶプログラミング入門 (アシアル)				

1 学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、学習活動を通して問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようする。【知識及び技能】
- (2)様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。【思考力、判断力、表現力】
- (3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。【学びに向かう態

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

情報は、社会生活を送るうえで思考・判断・行動するときに欠くことのできない存在です。また、情報は個人が持っているだけでなく社会全体が共有し、ネットワーク化されてより新しい価値や意味を見出す時代になってきました。身近にある情報端末が使えるだけに終始することなく、得られた情報を組み合わせることで、よりよい人間社会を築く取り組み能力を主体的かつ創造的に獲得して欲しいと思います。したがって、知識や技術等を一方的に伝えるではなく、与えられた教材や題材をもとに自他ともに協働して学習することになりま

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やメディアの特性について、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけている。 ・法規やセキュリティの重要性、個人の責任及び情報モラルについて理解している。 ・人々や社会に果たす役割と影響について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報をもとにどのような結果が得られるかを把握できる。 ・得られた結果をもとに適切な判断ができる。 ・結果を効果的な形に表現し伝達できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・得られた知識や情報をもとにし、その活用について主体的に考えて取り組むことができる。 ・他者との関わりや情報交換を行い、よりよいものに改善しようという協調的な姿勢を継続できる。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ペーパーまたはC B T を用いて事実的な知識の習得と概念的な理解を問う問題のバランスを配慮して出題評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習レポート課題による評価 ・グループ学習における協働と作品の評価 ・作品等の成果物発表における評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・GoogleForms等を活用して個人内評価を行う。 ・得られた知識技能を積極的に活用しようと考え行動しているか。 ・成果物に対して自己評価と相互評価を取り入れて学習をしているか。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1章情報社会と私たち 1節情報社会	5	(1)情報社会と情報 (2)情報の特性 (3)情報のモラルと個人に及ぼす影響 実習 PC及びタブレットの使い方	・法規や制度、セキュリティの重要性を理解しようとしている。(a) ・情報と情報技術を適切に活用して問題を解決・発見しようとしている。(b)
5	第1章情報社会と私たち 2節情報社会の法規と権利 3節情報技術が築く新しい社会	6	(1)知的財産 (2)情報の利用と公開 (3)個人情報の保護と管理 (4)社会の中の情報システム (5)情報技術と課題解決	・社会に果たす役割と及ぼす影響について理解しようとしている。(a) ・情報と情報技術の効果的な活用と望ましい情報社会の構築について寄与しようとしている。④
6 7	第2章メディアとデザイン 1節メディアとコミュニケーション	12	(1)メディアの発達 (2)メディアの特性	・質的データと量的データの扱い方や違いを理解しようとしている。(a)
8 9	第3章システムとデジタル化 1節情報システムの構成 2節情報のデジタル化	10	(1)コンピュータの構成と動作 (2)ソフトウェアとインタフェース (3)アナログとデジタル (3)2進数と情報量 (4)演算の仕組み (5)数値と文字の表現	・コンピュータの仕組みと動作について理解しようとしている。(a) ・収集されたデータを適切な形で整理や変換して表現することができる。(b) ・Webページの制作でわかりやすく
10	第4章ネットワークとセキュリティ 1節情報通信とネットワーク 2節情報セキュリティ 第5章問題解決とその方法 1節問題解決	7	1節 (1)ネットワークの構成 (2)情報通信の取り決め (3)Webページとメールの仕組み (4)転送速度とデータ圧縮 2節 (1)脅威に対する安全対策	・ネットワークの構成とプロトコルについて理解しようとしている。(a) ・情報量の計算を理解できるように努力している。(c) ・情報セキュリティについて関心を持ち身近な問題意識を持とうとしている。(a)
11	第5章問題解決とその方法 2節データの活用	6	(1)データの収集と整理 (2)データ分析と表計算 (3)データの可視化 (4)データ分析の手法 (5)データベースとは 実習 表計算	・データの収集から分析までの一連の手順を身に着けようとしている。(a) ・データ分析を行うため必要なアプリケーションを用いて考察しようとしている。(b)
12	第5章問題解決とその方法 3節モデル化	6	(1)モデル化とシミュレーション (2)モデルの分類	・問題の発見・解決に活用するために
1	第6章アルゴリズムとプログラミング 1節プログラミングの方法	5	(1)アルゴリズムとその表記 (2)プログラミング言語 実習 Pythonの基本	・アルゴリズムやフリーチャート等の表現技能を身につけようとしている。(a) ・目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法表現しようとしている。(b)
23	第6章アルゴリズムとプログラミング 2節プログラミングの実践	5	(1)プログラミングの方法 (2)関数を使用したプログラム (3)探索と整列のプログラム 実習 Pythonの基本	・ネットワークを活用して評価改善しようとしている。(b) ・問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。 ④

科 目	英語コミュニケーション I	単位数	4 単位	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	Power On English Communication 1				
補助教材等	Power On English Communication 1 スタディノート・ワークブック コーパス3000				

1 学習の到達目標

- ・身近な話題を通して、英語や異文化に対する理解を深める
- ・様々な文化や価値観に触れることでグローバルな視点持つ豊かな人間性や社会性を育む
- ・スピーチングやグループワーク、発表などを通じ、自主性や積極性を育て、4技能5領域の向上を図る
- ・授業を通して、基本的な英語力、学習習慣をつける
- ・
- ・

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・基礎的な学習として、まず単語を多く覚えましょう。(週1回の単語テストを有効に活用しよう)
- ・授業では、グループワーク、音読、発表に力を入れていきます。主体的に取り組み、教科書に出てきた表現を応用し、積極的に英語でコミュニケーションをとってみましょう。
- ・週1回あるALTの先生との授業では、グローバルな話題について、聞いたり話し合ったりしてみましょう。
- ・家庭で課題をすることを通して、学んだことが定着し、学習習慣も身に付きます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な英語力を身に着け、コミュニケーション活動で適切に使えるか。 ・言語やその運用についての知識を身につけているとともに、背景にある文化などを理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や他者の意見について考え、判断し、自分の言葉で表現しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする姿勢 ・出欠状況・課題提出物・グループワークなどの取り組み状況
主な評価方法	<p>【定期考查】</p> <p>中間考查2回</p> <p>期末考查3回</p> <p>【課題】</p> <p>単語テスト（週1回）・その他の小テスト</p> <p>【実技テスト】</p> <p>音読テスト（各学期1回）</p>	<p>【定期考查】</p> <p>中間考查2回</p> <p>期末考查3回</p> <p>【課題】</p> <p>グループワーク（発表）</p> <p>ペアワーク（意見交換）</p>	<p>授業態度</p> <p>出欠状況</p> <p>課題提出状況</p> <p>グループワークへの取り組み</p>

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
(b) 思考・判断・表現
(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	Lesson1 Japan's New Tourism	10	日本のニューツーリズムについて読み取る 動詞の時制、助動詞の使い方について	
5	Lesson2 Light from Creatures	10	生物が光る理由や、その光が医療研究に使われ ていることを読み取る。 受け身や完了形の動詞の形を確認する	
6	Lesson3 Routes to the Top	10	スポーツクライマー野口選手のインタビューを 読み取る 動名詞・不定詞について学ぶ	
7	Lesson4 Left to Right, Right?	10	日本のマンガとその翻訳について読み取る 現在分詞・過去分詞・比較、最上級について 学習する	
8		18		
9	Lesson5 Banana Paper	18	バナナペーパープロジェクトによる村の人々の暮 らしの変化について読み取る 関係代名詞について学習する	
10	Lesson6 Patterns in Human Behavior	18	心理実験の手順や結果について読み取る 形式主語Itの文章を作れるようにする	
11	Lesson7 No Plastic, No Future	18	プラスチックごみによる海洋汚染について読み 取る 関係副詞・関係代名詞whatを学ぶ	
12	Lesson8 Oh, My Cod!	10	フィッシュアンドチップスの起源や歴史を読み 取る 分詞構文、関係代名詞の非制限用法	
1	Lesson9 Is e-sports a Real sports?	10	e-スポーツの現状、利点や欠点を読み取る 知覚動詞、使役動詞を習う	
2	Lesson10 Being Different is Beautiful	8	ヨシダナギさんの過去と現在について読み取る 色々な仮定法について習う	

科 目	英語コミュニケーション I	単位数	3 単位	履修学年・クラス (講座)	1 学年
使用教科書	Power On English Communication 1				
補助教材等	Power On English Communication 1 スタディノート・ワークブック コーパス3000				

1 学習の到達目標

- ・身近な話題を通して、英語や異文化に対する理解を深める
- ・様々な文化や価値観に触れることでグローバルな視点持つ豊かな人間性や社会性を育む
- ・スピーチングやグループワーク、発表などを通じ、自主性や積極性を育て、4技能5領域の向上を図る
- ・授業を通して、基本的な英語力、学習習慣をつける
- ・
- ・

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・基礎的な学習として、まず単語を多く覚えましょう。(週1回の単語テストを有効に活用しよう)
- ・授業では、グループワーク、音読、発表に力を入れていきます。主体的に取り組み、教科書に出てきた表現を応用し、積極的に英語でコミュニケーションをとってみましょう。
- ・週1回あるALTの先生との授業では、グローバルな話題について、聞いたり話し合ったりしてみましょう。
- ・家庭で課題をすることを通して、学んだことが定着し、学習習慣も身に付きます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な英語力を身に着け、コミュニケーション活動で適切に使えるか。 ・言語やその運用についての知識を身につけているとともに、背景にある文化などを理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や他者の意見について考え、判断し、自分の言葉で表現しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする姿勢 ・出欠状況・課題提出物・グループワークなどの取り組み状況
主な評価方法	<p>【定期考查】</p> <p>中間考查2回</p> <p>期末考查3回</p> <p>【課題】</p> <p>単語テスト（週1回）・その他の小テスト</p> <p>【実技テスト】</p> <p>音読テスト（各学期1回）</p>	<p>【定期考查】</p> <p>中間考查2回</p> <p>期末考查3回</p> <p>【課題】</p> <p>グループワーク（発表）</p> <p>ペアワーク（意見交換）</p>	<p>授業態度</p> <p>出欠状況</p> <p>課題提出状況</p> <p>グループワークへの取り組み</p>

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
(b) 思考・判断・表現
(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	Lesson1 Japan's New Tourism	8	日本のニューツーリズムについて読み取る 動詞の時制、助動詞の使い方について	
5	Lesson2 Light from Creatures	8	生物が光る理由や、その光が医療研究に使われていることを読み取る。 受け身や完了形の動詞の形を確認する	
6	Lesson3 Routes to the Top	8	スポーツクライマー野口選手のインタビューを 読み取る 動名詞・不定詞について学ぶ	
7	Lesson4 Left to Right, Right?	9	日本のマンガとその翻訳について読み取る 現在分詞・過去分詞・比較、最上級について 学習する	
8		12		
9	Lesson5 Banana Paper	12	バナナペーパープロジェクトによる村の人々の暮 らしの変化について読み取る 関係代名詞について学習する	(a) (b) 中間・期末テスト 単語テスト 音読テスト
10	Lesson6 Patterns in Human Behavior	12	心理実験の手順や結果について読み取る 形式主語Itの文章を作れるようにする	(b) 中間・期末テスト グループワーク
11	Lesson7 No Plastic, No Future	12	プラスチックごみによる海洋汚染について読み 取る 関係副詞・関係代名詞whatを学ぶ	(C) 授業態度など
12	Lesson8 Oh, My Cod!	8	フィッシュアンドチップスの起源や歴史を読み 取る 分詞構文、関係代名詞の非制限用法	
1	Lesson9 Is e-sports a Real sports?	8	eースポーツの現状、利点や欠点を読み取る 知覚動詞、使役動詞を習う	
2	Lesson10 Being Different is Beautiful	8	ヨシダナギさんの過去と現在について読み取る 色々な仮定法について習う	

科 目	論理・表現 I	単位数	単位	履修学年・クラス (講座)	1学年
使用教科書	Harmony English Logic and Expression I				
補助教材等	同教科書準拠ワークブック				

1 学習の到達目標

- ・ 言語や文化に対する理解を深め、様々なシチュエーションに対応したコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ・ 論理的な思考力を養い、論理の展開や表現方法を工夫し、伝える能力を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

文法項目の基礎を理解して、書く、話すなど様々なシチュエーションに対応できることを目指します。役に立つ表現や会話表現を覚え、ALTの先生との授業で実際にコミュニケーションをとってみましょう。英語という言葉や英語を使う国の人々の文化などを学び、国際人としての教養や感覚も身につけましょう。論理的に文章を書く表現方法も学びますので、多様化する大学入試への対応も万全です。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	習得すべき知識や重要な概念等を理解しているか。 それらを、既存の知識及び技能と関連付けて活用できているか。	知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けているか。	積極的に言語活動を行う中で、知識・技能を習得し、思考力、判断力、表現力を得ようとする積極的な態度がみられるか。
主な評価方法	【定期考査】 期末テスト3回 【課題】 小テスト、レポート 【発表】 グループ発表、個人発表 【実技】 スピーチ、プレゼンテーション	【定期テスト】 期末テスト3回 【課題】 小テスト、レポート 【発表】 グループ発表、個人発表	【課題】 レポート、スピーチなど 【授業態度】 出欠状況、課題提出状況 グループワークなどへの取り組み状況 【実技】 スピーチ、プレゼンテーション

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能
 (b) 思考・判断・表現
 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	Lesson1 Meeting New People Lesson2 Last Weekend	3 3	現在形を使って自分のことを伝える 過去形を使って休日したことを伝える	
5	Lesson3 Weekend Plans Lesson4 A Short trip	3 3	willなどを使って自分の予定を話す 完了形を使って経験などを話す	
6	Lesson5 School Rules Lesson6 Are you All Right?	3 3	助動詞を使って「してはいけないこと」を伝える 助動詞を使って推測したことを伝える	
7	Making Speech	4	自分の予定、経験、出来事などを伝える	
8	Lesson7 Things Japanese	4	受動態を使って物を紹介する	
9	Lesson8 Talking About Dreams Lesson9 Keep Fit	4 4	不定詞を使って「これからしたいこと」を話す 不定詞を使って足りない情報を補う	(a)期末テスト・レポート (b)期末テスト・レポート (c)授業態度
10	Lesson10 Our Future Devices Lesson11 Talking about Likes and Dislikes	4 4	使役・知覚動詞を使って「可能」なことを話す 動名詞を使って好きなことを話す	スピーチ、プレゼンテーション
11	Lesson12 Reporting Something Unusual Lesson13 Being in Trouble	4 4	分詞を使って「変わった生き物」について説明する 分詞を使ってトラブルの相談をする	
12	Lesson14 Great Achievements Lesson15 What's SDGS?	4 4	関係代名詞を使って、有名人の功績を説明する 関係副詞を使って「場所・時」の追加説明をする	
1	Lesson16 Climate Changes Lesson17 Food Waste	4 4	比較級を使って程度の比較をする 比較級を使ってデータの比較をし社会問題を考える	
2	Lesson18 Water Problems	4	仮定法を使って違う人の立場に立って話す	

科 目	英語コミュニケーション II	単位数	3 単位	履修学年・クラス (講座)	2学年 普通科
使用教科書	Power On English Communication II (東京書籍)				
補助教材等	Power On English Communication II (東京書籍) スタディノート・ワークブック Tetra 2 4技能対応総合問題集 (啓隆社) 他				

1 学習の到達目標

- 様々な分野に関する英文を読んで読解力の伸長を図る
- 英文の中で使用された文法事項を用いて知識・技能を高める。
- さまざまなトピックから海外の生活習慣や文化を学ぶことで教養を高める。
- 繰り返し音読を図ることで発音や英語を発することに慣れるとともにアクティビティやプレゼンテーションを通して自身の意見や考えを英語で表現する力 (思考力・判断力・表現力) を身に着ける。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 毎日の授業は「予習を確認する場」であると考えて、日々の予習を必ず行って授業に臨んでください。
- 英語力を向上させるために、予習(Preparation)と復習(Review)を日々繰り返し行ってください。
- 英語学習には特効薬(panacea)などありません。貴方達の<やる気>と<根気>が鍵を握っていることを肝に銘じ、粘り強く取り組んでください。 You can do it!

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	授業、各種課題、定期テスト単語テスト、リスニングテスト、音読テスト等に計画的かつ積極的に取り組み成果を上げることができたか。	自ら考え、各種課題、プレゼンテーション、アクティビティーに積極的に参加できたか。また、その中で論理的思考を身に付けることができたか。	日々の授業に前向きに取り組むことができたか。また、提出物、音読テストを期限内に提出することができたか。
主な評価方法	定期考查 (中間考查 2回、期末考查 3回) 単語テスト (週1回) リスニングテスト (週1回) 音読テスト (各学期毎、計3回) 、	音読、リスニング、ディクテーション、ペアワークやプレゼンテーションへの取り組み状況。	音読テスト、ワークブックの提出状況、出席状況及び授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) (a) 知識・技能

(b) 思考・判断・表現

(c) 主題的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	Lesson 1	10	助動詞+動詞の原形 受け身+SVC	1 学期中間考查
5	Lesson 2	10	SVOC+使役動詞+知覚動詞	
6	Lesson 3	10	現在完了形+過去完了形 仮定法過去のif節	1 学期期末考查
7	Lesson 4	10	関係代名詞（主格・目的格） 関係代名詞の非制限用法	
8	Tetra	10	夏季休業課題総合演習	2 学期中間考查
9	Lesson 5	10	助動詞+受け身 SVC+SV0+seem(appear) that節	
10	Lesson 6	10	It's said that節+形式目的語(thatとto) 助動詞	
11	Lesson 7	10	関係代名詞（所有格）+同格接続詞that 前置詞と関係代名詞、関係副詞hereの非制限用法	2 学期期末考查
12	Lesson 8	10	強調構文+強調の助動詞do 文が先行詞の関係代名詞+to have 過去分詞	
1	Lesson 9	10	譲歩を表す副詞+no matter 疑問詞 仮定法過去完了+分詞構文（過去分詞）	学年末考查
2	Lesson 10	10	過去完了進行形+be to不定詞 未来完了形	
3	Tetra		春季休業課題総合演習	

科 目	英語コミュニケーション II	単位数	3 単位	履修学年・クラス (講座)	2 学年 商業科
使用教科書	Power On English Communication II (東京書籍)				
補助教材等	Power On English Communication II (東京書籍) スタディノート・ワークブック Tetra 2 4技能対応総合問題集 (啓隆社) 他				

1 学習の到達目標

- 様々な分野に関する英文を読んで読解力の伸長を図る
- 英文の中で使用された文法事項を用いて知識・技能を高める。
- さまざまなトピックから海外の生活習慣や文化を学ぶことで教養を高める。
- 繰り返し音読を図ることで発音や英語を発することに慣れるとともにアクティビティやプレゼンテーションを通して自身の意見や考えを英語で表現する力 (思考力・判断力・表現力) を身に着ける。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 毎日の授業は「予習を確認する場」であると考えて、日々の予習を必ず行って授業に臨んでください。
- 英語力を向上させるために、予習(Preparation)と復習(Review)を日々繰り返し行ってください。
- 英語学習には特効薬(panacea)などありません。貴方達の<やる気>と<根気>が鍵を握っていることを肝に銘じ、粘り強く取り組んでください。 You can do it!

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	授業、各種課題、定期テスト単語テスト、リスニングテスト、音読テスト等に計画的かつ積極的に取り組み成果を上げることができたか。	自ら考え、各種課題、プレゼンテーション、アクティビティーに積極的に参加できたか。また、その中で論理的思考を身に付けることができたか。	日々の授業に前向きに取り組むことができたか。また、提出物、音読テストを期限内に提出することができたか。
主な評価方法	定期考查 (中間考查 2 回、期末考查 3 回) 単語テスト (週 1 回) リスニングテスト (週 1 回) 音読テスト (各学期毎、計 3 回) 、	音読、リスニング、ディクテーション、ペアワークやプレゼンテーションへの取り組み状況。	音読テスト、ワークブックの提出状況、出席状況及び授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) (a) 知識・技能

(b) 思考・判断・表現

(c) 主題的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	Lesson 1	10	助動詞+動詞の原形 受け身+SVC	1 学期中間考查
5	Lesson 2	10	SVOC+使役動詞+知覚動詞	
6	Lesson 3	10	現在完了形+過去完了形 仮定法過去のif節	1 学期期末考查
7	Lesson 4	10	関係代名詞（主格・目的格） 関係代名詞の非制限用法	
8	Tetra	10	夏季休業課題総合演習	2 学期中間考查
9	Lesson 5	10	助動詞+受け身 SVC+SV0+seem(appear) that節	
10	Lesson 6	10	It's said that節+形式目的語(thatとto) 助動詞	
11	Lesson 7	10	関係代名詞（所有格）+同格接続詞that 前置詞と関係代名詞、関係副詞hereの非制限用法	2 学期期末考查
12	Lesson 8	10	強調構文+強調の助動詞do 文が先行詞の関係代名詞+to have 過去分詞	
1	Lesson 9	10	譲歩を表す副詞+no matter 疑問詞 仮定法過去完了+分詞構文（過去分詞）	学年末考查
2	Lesson 10	10	過去完了進行形+be to不定詞 未来完了形	
3	Tetra		春季休業課題総合演習	

科 目	論理・表現 II	単位数	2 単位	履修学年・クラス (講座)	2 学年 普通科
使用教科書	MY WAY Logic and Expression II (三省堂)				
補助教材等	MY WAY Logic and Expression II Workbook				

1 学習の到達目標

- さまざまな英語表現や文法構造を学習し、生徒自身の経験や意見と繋げながら表現する力を学ぶ。
- 4技能5領域の中でも特にWritingとSpeaking (PresentationとInterview) に重点を置き、アウトプットの力を伸ばすことを目標とする。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 毎日の授業は「予習を確認する場」であると考えて、日々の予習を必ず行って授業に臨んでください。
- 英語力アップを目指すには、予習(Preparation)→復習(Review)を日々繰り返し行なうことが大切です。
- 文法が苦手な人が多いことは分かりますが、文法を理解すればするほど英文の内容を理解できるようになります。繰り返し学習すれば、自然と法則を見つけたり、英語の力がついていると実感できるようになるでしょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	さまざまなトピックにおける表現方法を積極的に学び、多くの知識及びコミュニケーションを円滑に進める方法を数多く身に付けることができたか。	授業内でのペアワークやプレゼンテーションを通じ、自分の考えや意見を適切にまとめアウトプットにつなげることができたか。また、その内容を文章に正確に表現することができたか。	授業内でのペアワークやプレゼンテーションに積極的に取り組むことができたか。他者と協力してお互いの力を高める努力を継続することができたか。
主な評価方法	定期考查 (年3回)	ペアワーク・プレゼンテーションへ取り組む態度及び実践内容。	授業態度及び出席状況、ワークブックの提出状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能

(b) 思考・判断・表現

(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	Lesson 1	7	現在完了形・過去完了形・未来表現	1 学期期末考查
5	Lesson 2	7	助動詞	
6	Lesson 3	7	受動態・不定詞①	
7	Lesson 4	7	不定詞②・知覚動詞・使役動詞	2 学期期末考查
8	Lesson 5	7	動名詞・分詞構文	
9	Lesson 6	7	比較	
10	Lesson 7	7	関係代名詞・関係副詞	
11	Lesson 8	7	仮定法	
12	Lesson 9	7	否定表現・代名詞	3 学期期末考查
1	Lesson 10	7	無生物守護構文・that表現	
2	エッセイライティング	2	自由にテーマを設定し文章を作成する	

令和 7 年度		3 学年	普通 科	
教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅢ	
		担当者	長尾 謙	

1. 学習目標

様々な分野に関する英文を読んで読解力の伸長を図ると共にその英文の中で使用された文法事項を用いて知識・技能を高める。テキストのトピックから海外の生活習慣や文化を学ぶことで、生徒自身のアイデンティティーを考え、さらに繰り返し音読をすることで発音や英語を発することに慣れ、アクティビティーやプレゼンテーションを通して自身の意見や考えを英語で表現する力（思考力・判断力・表現力）を身に着けることを目標とする。

2. 使用教材等

・教科書名 Power On English Communication Ⅲ（東京書籍）

・副教材名 Power On English Communication Ⅲ（東京書籍）ワークブック
コーパス3000（単語帳）

3. 学習項目（学習内容）

学期	月	単元	学習内容	時間数	考查
1	4	Lesson 1	Library of the Future	20	中間考查
	5	Lesson 2	History Maker Otani Shohei		
	6	Lesson 3	Zoo Dentist:How They Work for Zoo Animals	25	期末考查
	7	Lesson 4	Nature Photographer in Alaska		
2	8	Lesson 5	A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	30	中間考查
	9	Lesson 6	Where Does Haloween Come from?		
	10	Lesson 7	Will 3D Printing Technology Changes the World?		
	11	Lesson 8	A Conductor of the Underground Railroad	25	期末考查
	12	Lesson 9	English, Always Growing		
3	1	Lesson 10	Understanding the Culture of Dogs	5	学年末考查
	2				
	3				

4. 評価の観点

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。
②思考・表現・判断	外国語で話したり書いたりして、情報や考え方等を適切に伝えているか。
③言語や文化についての知識・理解	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考え方等を適切に伝えているか。

5. 評価の方法

・定期考查： 中間考查2回、期末考查2回、学年末考查1回

・課題： 単語テスト（週1回）、音読テスト（毎期末）、Workbookによる復習

・授業態度： 授業に取り組む姿勢 出席状況 提出物

6. 学習にあたっての注意とアドバイス

毎日の授業は「予習を確認する場」であると考えて、日々の予習を必ず行って授業に臨んで下さい。英語の力を付けるには、予習(Preparation)→授業(Lesson)→復習(Review)を日々繰り返し行って下さい。これが英語力のく黄金サイクルくとなります。英語学習には特効薬(panacea)などありません。貴方達のく遣る気くとく根気だけがその特効薬となりますので、粘り強く頑張って下さい。 You can do it!

令和 7 年度		3 学年	商業 科						
教科名	英 語	科目名	英語コミュニケーションⅢ		3 単位				
		担当者	長尾 謙						
1. 学習目標									
様々な分野に関する英文を読んで読解力の伸長を図ると共にその英文の中で使用された文法事項を用いて知識・技能を高める。テキストのトピックから海外の生活習慣や文化を学ぶことで、生徒自身のアイデンティティーを考え、さらに繰り返し音読を図ることで発音や英語を発することに慣れ、アクティビティーやプレゼンテーションを通して自身の意見や考えを英語で表現する力（思考力・判断力・表現力）を身に着けることを目標とする。									
2. 使用教材等									
・教科書名 Power On English Communication Ⅲ（東京書籍）									
・副教材名 Power On English Communication Ⅲ（東京書籍）ワークブック コーパス3000（単語帳）									
3. 学習項目（学習内容）									
学期	月	単元	学習内容	時間数	考查				
1	4	Lesson 1	Library of the Future	20	中間考查				
	5	Lesson 2	History Maker Otani Shohei						
	6	Lesson 3	Zoo Dentist:How They Work for Zoo Animals	25	期末考查				
	7	Lesson 4	Nature Photographer in Alaska						
2	8	Lesson 5	A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	30	中間考查				
	9	Lesson 6	Where Does Halloween Come from?						
	10	Lesson 7	Will 3D Printing Technology Changes the World?						
	11	Lesson 8	A Conductor of the Underground Railroad	25	期末考查				
	12	Lesson 9	English, Always Growing						
3	1	Lesson 10	Understanding the Culture of Dogs	5	学年末考查				
	2								
	3								
4. 評価の観点									
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度		コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。							
②思考・表現・判断		外国語で話したり書いたりして、情報や考え方等を適切に伝えているか。							
③言語や文化についての知識・理解		外国語を聞いたり読んだりして、情報や考え方等を適切に伝えているか。							
5. 評価の方法									
・定期考查： 中間考查2回、期末考查2回、学年末考查1回									
・課題： 単語小テスト（週1回）、音読テスト（毎期末）、ワークブックを用いた復習問題									
・授業態度： 積極性、提出物、出席率									
6. 学習にあたっての注意とアドバイス									
様々なトピックに触れることで、他国の文化に触れ、グローバルな知識を身に着けます。週に1度の単語テストや音読テストは継続して行います。自分の意見を英語で表現するグループワーク、また英語検定など、学習した英語を応用するチャンスは積極的に生かしてほしいと思います。									

令和 7 年度	3 学年	普通 科	
教科名	外国語	科目名	論理・表現Ⅲ
		担当者	長尾 謙

1. 学習目標

様々な英語表現や文法構造を学習し、生徒自身の経験や意見と一緒にながら表現する力を学ぶ。4技能5領域の中でも特にWritingとSpeaking (PresentationとInterview) に重点を置き、アウトプットの力を伸ばすことを目標とする。

2. 使用教材等

・教科書名 Harmony English Logic and ExpressionⅢ

・副教材名 Harmony English Logic and ExpressionⅢ All-in-One Workbook

3. 学習項目（学習内容）

学期	月	単元	学習内容	時間数	考查
1	4	Introduction Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	My Hometown The Place I'd Like to Live Designing "Future Cities"	10	中間考查
	5	Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	Refreshing Our Minds and Bodies Study Struggles Choosing a Career Path	12	期末考查
	6				
2	7				
	8	Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9	Extreme Weather around the World Working to Solve Energy Problems For the Future of Our Planet	16	中間考查
	9				
	10	Lesson 10	What's Ethical Shopping?	20	期末考查
3	11	Lesson 11 Lesson 12 Lesson 13	Global Economic Inequality Sustainable Economic Growth Why We Learn Foreign Languages		
	12				
	1	Lesson 14 Lesson 15	Communication in the Digital Age Online Learning	12	学年末考查
2	2				
	3				

4. 評価の観点

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度

積極的にコミュニケーションを図ろうとしているか。

②思考・表現・判断

論理的に且つ簡潔に自分が言いたい事が表現出来るか。また自己表現の工夫が出来たか。

幅広い語彙が使いこなせているか。他の意見を聞きながら自分の意見をまとめること

③言語や文化についての知識・理解

話す内容の知識や背景が身に付いているか。論理的な思考を身に着けることが出来たか。

5. 評価の方法

・定期考查： 中間考查2回、期末考查2回、学年末考查1回

・課題： 各単元の予習とWorkbookによる復習

・授業態度： 提出物、授業に取り組む姿勢、出席状況

6. 学習にあたっての注意とアドバイス

毎日の授業は「予習を確認する場」であると考えて、日々の予習を必ず行って授業に臨んで下さい。英語力を身付けるには、予習(Preparation)→授業(Lesson)→復習(Review)を日々繰り返し行なうことが大切です。文法が苦手な人は多いことは分かりますが、文法を理解すればするほど英文の内容を理解できるようになります。繰り返し学習すれば、自然と法則を見つけたり、英語の力がついていると実感できるようになるでしょう。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技能、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	消費と環境 お金の管理		テーマに沿って調べ、発表する 消費者としての意識付け	・テーマに沿った内容のスライドを作り、発表できる(a)
5	契約・ライフデザイン 自分・家族		18歳青年における注意 生活実態と家族の役割	・発表の仕方を工夫し、注意を惹く説明ができる(b)
6	家族と人生 家族の課題			・客観的な評価ができ、提出期限を守ることができる©
7	実習 被服製作実習		実習を通して、持続可能な 生活設計を実践できるように する	・被服製作実習では作品の完成度を、調理実習では実習の感想や栄養価の計算をする(a)
8	調理実習 衣生活		テーマに沿って調べ、発表する 衣服の管理を知る	・テーマに沿った内容のスライドを作り、発表できる(a)
9	衣服の歴史と管理 いろいろな人が着る		衣服の歴史に触れる	・発表の仕方を工夫し、注意を惹く説明ができる(b)
10	食生活 食と健康		食と健康や世界とのつながり	・客観的な評価ができ、提出期限を守ることができる©
11	地産地消と世界との つながり			
12	食生活 栄養素の働き		テーマに沿って調べ、発表する 栄養素の働き	・テーマに沿った内容のスライドを作り、発表できる(a)
1	食の安全性 豊かな食生活		食の安全性 気候変動と食生活の関係	・発表の仕方を工夫し、注意を惹く説明ができる(b)
2	子どもと高齢者 少子高齢化社会を生き る		少子高齢化とこれからの社会 について	・客観的な評価ができ、提出期限を守ることができる©

科 目	家庭基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2 年・全クラス
使用教科書	Agenda家庭基礎				
補助教材等	生活学Navi				

1 学習の到達目標

生活様式の多様化が進む現代社会において、主体的に生活を営み、生活の充実向上を生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 生活は日々変化しています。その変化をとらえるために、一人一人が分担して調べ学習をします。調べたことは発表します。どんなふうに発表するかは各自の工夫によります。聞いているクラスメイトが感心してくれるような発表をしましょう。
- コピペの多用ではなく、自分たちの言葉で説明できるように多面的な調べを進めましょう。
- 発表者への成績は責任をもってつけましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	調べることを通して社会変化に気づき、高校生らしい視点と工夫で発表スライドを作り、発表する。 実技においては、作品を丁寧に作る。	与えられたテーマについて、深く考察できている。 発表する時間が短かすぎない。 わかりやすい説明ができた。	提出期限を守る。 相互評価をきちんと行う。 いい加減な評価をしない。 実習での忘れ物をしないで、熱心に取り組む。
主な評価方法	・発表を聞いた生徒による評価 ・作品の出来栄え、感想の記入	・内容の充実、わかりやすさ、表現の工夫について確認する	・提出期限を守ったか確認する ・相互評価用のGoogleフォームを提出できているか確認する ・いい加減な評価をしていないか確認する

科 目	ビジネス基礎	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1年商業科
使用教科書	ビジネス基礎（実教出版）				
補助教材等	ビジネス基礎 準拠問題集（実教出版）				

1 学習の到達目標

ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

- (1) 実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 日ごろから新聞やニュースなどより社会へ関心をもつ。
- 商業科3年間の基礎を学ぶ科目なため、意欲的に取り組む。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けています。	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決ことについて考えています。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。
主な評価方法	・定期テスト	・ワークシート ・レポート	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	1. 商業の学習とビジネス	8	<ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解する。 ・ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例と関連付けて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解している。(a) ・商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。(a) (c)
6	3. 経済と流通の基礎	10	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の仕組みと流通の必要性について理解する ・経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、流通に関する課題を発見し、その解決方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。(a) ・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。(b) (c)
7 8	4. さまざまなビジネス	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学ぶ。 ・流通や流通に関わるビジネスに関する知識を基盤として、流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。(a)
9 10	5. 企業活動の基礎 1 ビジネスと企業 2 マーケティングの重要性 3 資金調達 4 財務諸表の役割 5 企業活動と税 6 雇用	12	<ul style="list-style-type: none"> ・企業活動に関する知識を基に、企業活動の動向など、企業活動に関する課題を発見し、その対応策を考える。 ・企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。(a) ・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。(b) ・企業活動について自ら学び企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。(c)
11	6. ビジネスと売買取引 1 売買取引の手順 2 代金決済	11	<ul style="list-style-type: none"> ・売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学ぶ。 ・取引に関する知識や技術を基に、実務における取引に関する課題を発見し、その対応策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付いている。(a) ・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。(b) ・取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組んでいる。(c)
12	7. ビジネス計算 1 ビジネス計算の基礎 2 ビジネス計算の応用	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス計算に関する知識や技術を学ぶ。 ・ビジネス計算について学び、その知識と技術で組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身についている。(a) ・ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。(c)

1 2	身近な地域のビジネス 1 さまざまな地域の魅力と課題 2 地域ビジネスの動向	11	<p>・さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学ぶ。</p> <p>・さまざまな地域のビジネスに関する知識などを基に、身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考える。</p> <p>・さまざまな地域のビジネスについて理解している。(a)</p> <p>・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。(b) (c)</p> <p>・身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。(c)</p>

科 目	情報処理	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	1年商業科
使用教科書	情報処理 (実教出版)				
補助教材等	全商 ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2級 (実教出版) 全商 情報処理検定模擬試験問題集 2級 (実教出版)				

1 学習の到達目標

コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなど、情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得する。さらにビジネス情報の意義や役割について理解し、ワープロや表計算など既成のソフトウェアや情報通信ネットワークを用いて、情報収集・整理・処理・分析などの理解を深めること。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・ネットワーク時代の事例および各自のPCと学校設備のPCにより情報設備の利用技術と情報リテラシー、情報モラルに基づいた正しく適切な知識と技術の学習を行う。
- ・検定試験などを通して事例を踏まえた技能と情報加工技術の習得状況を把握する。
- ・システム開発に必要なアルゴリズムと創像的で主体的に取り組む学習姿勢を育む。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	企業において情報を扱い、実務に即して、体系的・系統的に理解していること。情報の有効的加工と報告に関する知識と技術を身に付けている。 情報機器を利用してどんな加工と報告ができるか。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 伝えるべき情報をどのような形態で報告することが適切か。有効な伝達手段等を選択活用できているか。	情報の持つ内容を積極的に理解し、処理技術や報告手段等について自ら探究し、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
主な評価方法	ワープロ・表計算・プレゼンテーションに関する各アプリケーションソフトの機能を理解し操作技術を身に付けているか	企業の経営データを整理し、加工することで必要な情報を作成し、テキストまたはグラフィックなどにより有効的な表現方法が選択できるか。	データの特性や加工方法について主体的に創像的に取り組み課題解決と報告書の作成に取り組もうとできるか。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	1章 企業活動と情報処理 2章 コンピュータシステムと 情報通信ネットワーク ・基本文書の作成 ・問題の発見と解決の方法	30	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な情報の理解と企業活動における情報活用の必要性を理解する。 ・ネットワーク利用と情報モラル、セキュリティに関する知識を習得する。 ・情報機器の基本操作と機能を理解する。 ・ワープロソフトによる基本文書の作成技術、事象のモデル化、シミュレーション技法及びアルゴリズムの考案などプログラム作成の基礎的知識の習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業における情報活用の重要性とネットワーク社会における情報モラルの理解ができたか。(a) ・情報機器を利用する技術を身に付けデータを必要な情報へと加工する知識と技術を身に付け、活用できるか。(b) ・情報を分析して適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。(c) ・中間考査および期末考査において成績度を評価する。
7 8 9 10 11	3章 情報の集計と分析 4章 ビジネス文書の作成	50	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク技術の理解と活用表計算ソフトの活用と加工技術の習得 ・大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。 ・大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク環境や情報機器の基本的な操作や関数等の各種機能について理解し、文書や表にまとめ表現する技術を身に付けたか。(a) ・課題に対し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。(b) (c) ・ビジネス文書検定試験および情報処理検定試験、中間考査および期末考査において成績度を評価する。
12 1 2	3章 情報の集計と分析 5章 プrezentation	35	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。 ・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの特徴やグラフの構成要素を理解できたか。目的に適切なグラフの作成と読み取れる内容を理解できたか。(a) (b) ・目的や形態に応じた資料作成などの準備ができるか。聴衆が理解しやすい資料や構成になっているか。(b) ・実習や探究問題に主体的に取り組んでいるか。(c) ・情報処理検定試験、中間考査、期末考査により成績度を評価する。

科 目	簿 記	単位数	4	履修学年・クラス (講座)	1 年商業科
使用教科書	高校簿記 新訂版 (実教出版)				
補助教材等	最新段階式簿記検定問題集 3 級				

1 学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようする。

(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。

(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・簿記の解き方を学ぶだけでなく、意味や役割を理解した上で簿記を学習する。
- ・毎日出席し、日々の学習をコツコツと積み重ねていく。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けています。	簿記をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、簿記に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応していく力を付けています。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら簿記について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、記帳、決算など適正な取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組もうとしている。
主な評価方法	・定期テスト	・グループワーク ・発言等	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	時数	学習内容	評価規準
4	第1編 簿記の基礎 第1章 企業の簿記 第2章 簿記の要素 第3章 取引の勘定	12	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の意味・目的・役立ちなどを理解させ、学習の心構えを身に付ける ・取引によって資産・負債・資本の増減から、期首と期末の財政状態に変化が生じ、その差額が純損益であることを理解する。 ・損益取引によって生じる収益総額と費用総額の差額が純損益であることを理解する。 ・簿記上の取引の意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記の基礎的な知識を身に付けているか。(a) ・企業の簿記の意義と役割を知り、簿記の学習に興味を示し、学習しようとする態度がみられているか。(c) ・簿記の基礎概念として資産・負債・純資産・収益・費用は何かを思考し、それぞれの区分を適切に判断し、適切に表現できているか。(b) ・勘定記入について適切に判断し、正確におこなえているか。(b)
5	第4章 仕訳と転記 第5章 仕訳帳と総勘定元帳 第6章 試算表 第7章 決算	16	<ul style="list-style-type: none"> ・仕訳の意味を知らせ、仕訳のしかたを十分理解する。 ・仕訳帳と総勘定元帳の意味を明らかにし、それぞれの記帳法を理解する。 ・試算表と貸借平均の原理の関係について、教科書の図などを使って学ぶ。 ・決算の必要性・重要性を記帳手続きについて理解し、簿記一巡の流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕訳の意味を理解しているか。(a) ・仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確におこなえているか。(b) ・企業の取引を帳簿に記入することに関心を示し、仕訳と転記にも自ら進んで取り組もうとしているか。(c) ・試算表・精算表や貸借対照表と損益計算書の作成法または意味や役割を理解しており、記帳を正確に行おうとしているか。(a)(c)
6	第2編 第8章 現金・預金の記帳 第9章 商品売買の記帳	16	<ul style="list-style-type: none"> ・現金・当座預金・その他の預金の意味を理解させ、その記帳法を習得する。 ・小口現金の意味を理解させ、その記帳法を習得する。 ・3分法による商品売買の記帳法を理解させる。 ・仕入帳・売上帳また商品有高帳の役割を理解させ、記帳法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現金・預金の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。(b) ・現金・預金、商品売買取引に関する知識を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。(c) ・3分法による記帳法や仕入帳・売上帳、商品有高帳に関する知識とその記帳法を理解したか。(a)
7	第10章 掛け取引の記帳 第11章 固定資産の記帳	16	<ul style="list-style-type: none"> ・売掛金元帳と買掛金元帳の必要性と記帳法を理解する。 ・売掛金勘定と売掛金元帳、買掛金勘定と買掛金元帳の関連を理解する。 ・貸し倒れの意味と、その記帳処理(法)を理解する。 ・固定資産の種類とその取得、売却についての記帳法を学ぶ。 ・固定資産台帳の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掛け取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けているか。(a) ・取引の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけているか。(b) ・取引に関する知識を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。(c)
8				

9	第12章 決算(その1) 第3編 第13章 手形取引の記帳 第14章 その他の債権・債務の記帳	16	<ul style="list-style-type: none"> 整理を含む決算手続きの学習により、複式簿記のしくみを学ぶ。 約束手形と為替手形の違いを理解させ、これらの手形の授受に伴う記帳法を習得する。 手形の裏書と割引の基本的な記帳法を学ぶ。 受取手形記入帳と支払手形記入帳の役割と記帳法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 決算の記録・計算・整理の内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けたか。(a) 手形に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。(b) 様々な取引に対して、適当な勘定科目的判断ができ、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。(c)
10	第15章 販売費及び一般管理費の記帳 第16章 資本金の記帳 第17章 決算(その2)	16	<ul style="list-style-type: none"> 販売費及び一般管理費の意味と記帳法、個人企業に課せられる税金について、種類と意味を理解させ、その記帳法を習得する。 資本金の増減に関する記帳法と引出金の意味を理解する。 決算(その1)の学習内容を復習し、さらに進んだ8桁精算表により決算のしくみを確実に理解させ、損益計算書と貸借対照表の作成を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 販売費及び一般管理費の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けているか。(a) 資本金に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけているか。(b) 決算整理を含んだ決算について、一定の方法に従って判断処理し、その財務諸表から諸活動を把握しようとしているか。(c)
11	第4編 第18章 帳簿 第19章 仕訳伝票と3伝票制	16	<ul style="list-style-type: none"> 帳簿の種類と、帳簿組織およびそれらと分課制度との関係、簿組織の立案について理解する。 伝票のはたらきとその種類を学び、3伝票制による取引の記帳法および集計と転記について理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学んでいる諸帳簿の記帳法を理解しているか。(a) 帳簿の種類や形式について関心を高めているか。(c) 入金取引・出金取引・その他の取引にどの伝票を用いるかの判断を通じて、記帳の合理化を考えることができるか。(b)
12 1	第20章 会計ソフトウェア 第5編 第21章 有価証券とその他の手形取引の記帳 第22章 決算(その3) 第6編 第23章 支店の取引	20	<ul style="list-style-type: none"> 会計ソフトウェアの導入と運用方法について理解させ、データを入力し体験させ、利点を学習する。 売買目的有価証券の意味を理解させ、その売買に伴う記帳法を習得する。 決算手続きを確認し、損益計算書と貸借対照表の形式を説明し、作成法を習得する。 支店会計の意味を理解し、記帳法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解しているか。(a) 有価証券とその他の手形取引に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけているか。(b) 決算整理を伴う決算手続きに関心を持ち、貸借対照表と損益計算書の作成に進んで取り組み、作成した貸借対照表と損益計算書からビジネスの諸活動を理解しようとしているか。(c)
2 3	第24章 本支店の財務諸表の合併	12	<ul style="list-style-type: none"> 本支店の貸借対照表と損益計算書の合併の意味と、その手続きおよび作成法について習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本支店の合併貸借対照表と合併損益計算書について基本的な内容を理解し、作成法を身に付けているか。(a)

科 目	課題研究	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	1 年商業科
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおりに育成することを目指す。

- (1) 実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 日ごろから新聞やニュースなどより社会へ関心をもつ。
- 教科書がない科目のため、自ら意欲的かつ積極的に取り組む姿勢が大切。
- 自分自身の将来設計に繋げるため、一つ一つの課題を自分事として捉える姿勢が必要。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解しているとともに、関連する知識・技術を身に付けていく。	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けていく。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けていく。
主な評価方法	・ワークシート	・ワークシート ・レポート	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 値 規 準
4 5	1. 調べ方を学ぶ 2. 自分の人生に関わるお金について考える 1 自分が欲しいもの 2 結婚に関わるお金 3 子どもを育てるお金 4 老後にかかるお金	8	・課題研究に取り組むにあたり必要な「調べる」ことを学ぶ。 ・自分が生涯関わるお金の事について調べる。	・自分が将来関わるお金について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・調査内容を自分事と捉えて取り組もうとする姿勢が見られる。
6 7 8	3. 企業を知る 1 あこがれる職業を一つ選ぶ 2 「その職業に就くメリット・デメリット」 3 今後雇用が厳しくなることが予想される職業を明らかにする 4 通勤 1 時間以内でクラスの仲間に勧めたい企業を見つける	10	・「年収分布」「働く期間」など現実に即した調べを行う。 あこがれる職業のメリットデメリットを調べる。 ・企業の趨勢を調べる ・優良企業について調べる	・自分が将来関わる仕事について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・調査内容を自分事と捉えて取り組もうとする姿勢が見られる。
9 10 11 12	4. 学校を知る 1 進学すべき学校はどこか 5. 起業を考える	10	・大学、専門学校のパンフレットを元に「得られる資格」「企業との連携した教育方法」の2点から整理し、調べる。 ・「ロボットや人工知能ではできない同時性の高い技術や商品を考える。 ・日本文化を活かして海外で活躍できる未来の職業を見つける。 ・起業家について調べ、起業することの意義を調べる。	・自分が将来関わる可能性がある学校について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・調査内容を自分事と捉えて取り組もうとする姿勢が見られる。
1 2	まとめ 課題研究発表会	12	・これまで調べ、まとめてきたことを踏まえて、自分が考える進路や社会貢献、あるいはこれから社会の在り方をまとめ、発表する。	・調べたことをベースに、自分が描く将来を自分事として明らかにしようとする姿勢が見られる。 ・発表が論理的で聴講者を説得・納得させるものになっている。

科 目	マーケティング	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2年商業科
使用教科書	マーケティング (実教出版)				
補助教材等	マーケティング準拠問題集、商業経済検定模擬試験問題集1・2級マーケティング				

1 学習の到達目標

マーケティングに関する知識と技術を習得させ、マーケティングの意義や役割について理解させるとともに、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・意欲的、積極的に授業に取り組み企業活動を自分が行うのであればどうするのかを考えながら学習しましょう。
- ・インターンシップ (就業体験) は、授業の一環として行われます。貴重な体験を通して多くのことを吸収し自ら主体的に取り組みましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組んでいる。
主な評価方法	・定期テスト	・定期テスト ・グループワーク ・ワークシート	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時数	学習 内 容	評 価 規 準
4	第1章 マーケティングの概要	10	マーケティングの概要について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの概要について理解している。(a) ・マーケティングの意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて見いだしている。(b)
5	第2章 消費者行動の理解	10	消費者の行動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者行動について理解している。(a) ・購買意思決定までの過程について、消費者の心理と消費者行動に影響を与える要因を関連付けて見いだすことができる。(b)
6	第3章 市場調査	14	市場調査の意義と手順を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。(a)
7	第4章 STP	7	市場を細分化し、対象となる消費者を選択し、製品やサービスのイメージを整理していくSTPについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・STP分析について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。(a) ・STP分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて対応策を考えている。(b)
8				
9	第5章 製品政策	10	4P政策の一つである製品政策について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・製品政策について事例と関連付けて理解している。(a) ・製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、製品政策を立案して実施し、評価・改善している。(b)
10	第6章 価格政策	12	4P政策の一つである価格政策について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・価格政策について事例と関連付けて理解している。(a) ・価格政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、価格政策を立案して実施し、評価・改善している。(b)
11	第7章 チャネル政策	10	4P政策の一つであるチャネル政策について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・チャネル政策について事例と関連付けて理解している。(a) ・チャネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、チャネル政策を立案して実施し、評価・改善している。(b)
12	第8章 プロモーション政策	12	4P政策の一つであるプロモーション政策について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション政策について事例と関連付けて理解している。(a) ・プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善している。(b)
1		12		
2	第9章 マーケティングのひろがり	8	学んできた考え方を深めたり、様々な分野に応用したりするマーケティングの広がりについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの広がりについて事例と関連付けて理解している。(a) ・マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、対応策を考えている。(b)

科 目	原価計算	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2年商業科
使用教科書	原価計算 新訂版 (実教出版)				
補助教材等	簿記実務検定対策問題集 合格ガイド 1級原価計算				

1 学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2)原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。
- (3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・原価計算を学ぶ上で、それに必要な知識や技術を習得するだけでなく、製造業（工場）の製品が出来上がるまでのながれを掴みながら学習する。
- ・欠席せず、毎日の授業時間を大切にする。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役立つ実務に即した知識と技術を身に付けるようにする。	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力を養う。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら原価計算について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度を養う。
主な評価方法	・定期テスト	・グループワーク ・発言等	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記 -製造業における簿記-	12	<ul style="list-style-type: none"> ・工業簿記は製造業に適用されるものを理解する。 ・原価の意味（製造原価・総原価）を理解する。 ・工業簿記における勘定記入の特徴を習得する。 ・工業簿記の一連の記帳手続を学ぶことにより、全体的な構造を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業の特徴や原価の基本的な内容を理解しているか。(a) ・製造直接費と製造間接費の区別の必要性や、製造活動に関わる勘定の特性について考え、表現できているか。(b) ・工業簿記にあたり、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。(c)
5	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算 第5章 労務費の計算	10	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費、労務費の分類とその内容を理解する。 ・材料の消費単価と消費数量の計算方法について理解する。 ・予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を習得する。 ・賃金以外の労務費の種類と計算と記帳方法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費・労務費の分類とその内容を理解しているか。(a) ・各種取引を適切に記帳することができるか。(a) (b) ・賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間のずれについて理解し、賃金勘定と関連付けて表現することができか。(b)
6	第6章 経費の計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算	14	<ul style="list-style-type: none"> ・経費の意味とその分類を理解し、消費高の計算と記帳方法を習得する。 ・個別原価計算のしくみや記入法を理解する。 ・原価元帳と製造勘定の関係を理解する。 ・製造間接費の配賦についての概要や差異分析を理解する。 ・仕損品・作業くずの意味を理解し、その処理を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経費の消費高の計算において、なぜ3分類するのか、合理的な記帳法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現し、学習しているか。(b) ・製造間接費の配賦方法について理解しているか。(a) ・実際配賦の欠点を説明でき、予定配賦による記帳を行える。(a) (b) ・原価要素について関心を持ち、意欲的に取り組むことができるか。(c)
7	第8章 部門別個別原価計算	9	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別個別原価計算の必要性を理解する。 ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割を理解する。 ・部門別個別原価計算の手続きの全体の流れを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部門別個別原価計算の必要性が理解し、部門費配分表、部門費振替表を作成できる。それぞれにもとづく記帳ができるか。(a) (b)
8				<ul style="list-style-type: none"> ・原価部門の設定について部門別計算の目的から考え、各部門の役割について表現できるか。(b)

9	第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損などの処理	20	<ul style="list-style-type: none"> 生産形態の違い、原価計算の方法も異なりを理解する。 種類を理解する。 月末仕掛品完成品換算数量・加工費・加工進捗度などの用語の意味を理解する。 単純総合原価計算、等級別総合原価計算、組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合原価計算の意味を知り、それぞれの形態により用いられる原価計算の方法が異なることが理解でき、手続きの流れが習得できているか。(a) (b) 生産形態の違いから、個別原価計算と総合原価計算の違いを説明することができるか。(b) 問題に対して自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。(c)
10	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引	14	<ul style="list-style-type: none"> 製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解する。 販売費及び一般管理費の記帳方法を理解する。 月次決算の意味と年次決算との関連について理解する。 財務諸表や製造原価報告書の作成方法を習得する。 工場会計の独立と、その記帳方法について理解し、習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の完成と販売に伴う手続きと販売費及び一般管理費の記帳方法が理解できていか。(a) 製造業の決算の特徴を商品売買業の決算と比較して考えたり、本社工場間の取引の記帳を本支店間の取引と比較して考えているか。(b)
11	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算その1 第15章 標準原価計算その2	12	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算が原価管理に役立つ理由を理解する。 標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解する。 完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解する。 原価差異の計算とその分析方法を理解する。 標準原価計算の記帳方法や損益計算書の作成方法を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準原価計算の意義と特色、手続きについて理解でき、完成品原価や月末仕掛品原価が計算できるか。(a) (b) なぜ、原価標準を設定するかについて理解しているか。(b) ペーシャルプラン、シングルプラン記帳ができるか。(a) 原価管理について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られたか。(c)
12 1	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算その1	10	<ul style="list-style-type: none"> 直接原価計算が利益計画に適している理由を知る。 直接原価計算表の意義と特色を理解する。 直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 直接原価計算の意義と特色、手続きについて理解できているか。(a) 利益計算について関心を持ち、意欲的に取り組む姿勢がみられるか。(c)
2 3	第17章 直接原価計算その2	4	<ul style="list-style-type: none"> CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解する。 高低点法を用いた原価予測の方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> CVP分析や損益分岐図表で、売上高・原価・利益の関係が理解できるか。(高低点法)(a) 損益分岐点比率と安全余裕率の意味を理解し、求めることができるか。(b)

令和 7 年度		2 学年	商業 科
教科名	商業	科目名	課題研究
			1 単位

1. 学習目標

生徒が販売の現場で必要な知識・技術・接客態度を身につけ、実践的な活動を通じて、社会人としての基礎的資質と主体的な学びの姿勢を養う。

2. 使用教材等

・教科書名

・副教材名

3. 学習項目 c

学期	月	単元	学習内容	時間数	考查
1	4	ガイダンス 模擬会社の組織作り（社長・部長選出） 商品選定 駒ヶ根PRポスター作成	駒ヶ根PRポスターのために、「地元を知る」調べ学習を実施 上伊那の特産品の中で販売する商品を選定する。 駒ヶ根をPRするためにどの場所をどのようにPRするのか、どのようなデザインでPRするのかをグループで考えポスター作成を行う。	5	
	5			6	
	6				
	7				
2	8	販売商品仕入計画 販売商品の価格設定等 販促物作成 実習準備（当日シフト作り）	販売商品をどの会社からどのくらい仕入れるのかを考える。これまでの商業の学びを活かしながら販売価格を設定する。 販売実習当日に使用するPOP等の販促物にどのようなものが良いのかをグループで考えながら作成する。 当日の販売時間内での動きを考え、シフトを作成する。	5	
	9				
	10				
	11			12	
3	12	売上分析・報告書作成 成果発表			
	1		販売実習当日を様々な観点から振り返る。売上分析を行う事を通じて販売商品についての振り返りなどを行う。	7	
	2		これまでの商業の学びを活かして収支報告書を作成し、日頃の学びと関連づける		
	3				

4. 評価の観点

①知識・技術	販売実習に必要な商品の仕入計画・販売計画などをこれまでの商業の学びを活かして作成できているか
②思考・判断・表現	販売場所の特徴を踏まえた上で、販売計画を立てられているのか 売上分析や収支報告書の作成を通して、改善策を考察できているか
③主体的に学習に取り組む個人、グループともに積極的に協力しながら販促物の作成に取り組めているか	

5. 評価の方法

- ・定期考查： 考査は原則実施しません
- ・課題： 通常授業内のプリント、レポートの提出状況を成績に反映させる。
- ・授業態度： 調査時の発想性や意欲度、協調的な態度、出欠席や遅刻早退の状況を考慮する。
- ・演習状況： 演習およびレポートの結果や考察・感想の的確さを評価します。

6. 学習にあたっての注意とアドバイス

・上伊那の特産品をまだ食べて事のない、または知らない人たちへの販売となるため販売する側として1つ1つの商品のPRポイントなどを含めた販促物を準備しそのような販売の仕方が良いのかをグループでこれまでの商業の学びを活かして考えていくこと。

科 目	ビジネス法規	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年商業科
使用教科書	教科書 商業 7 4 0 「ビジネス法規」				
補助教材等	問題集 準拠問題集 (実教出版)				

1 学習の到達目標

商業の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようとする。
- (2) 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- ・私たちが暮らす社会と法の関係について学んでいく。
- ・日ごろから社会のニュースや出来事について意識を向ける。
- ・2月に実施される「商業経済検定 ビジネス法規」合格を目指し、一年間がんばりましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解するようとする。	法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
主な評価方法	・定期テスト ・検定試験	・定期テスト ・グループワーク ・ワークシート	・授業態度 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 標 準
4	第1章 法の概要 1節 ビジネスにおける法の役割 2節 法の体系と解釈・適用		経済のグローバル化、情報化・サービスの多様化、規制緩和など経済環境の変化に伴って法規の改正などが行われている現状について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。	ビジネスを適切に行うための法の役割について理解する(a) ビジネスを円滑に行うことができるようになるため、経済環境の変化に伴って法規の改正などが行われている現状について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察できている(b,c)
5	第2章 権利・義務と財産権 1節 権利・義務とその主体 2節 物と物権・債権	30	権利・義務の概要、権利行使の制限及び物権、債権など財産権の概要について、法規と関連付けて理解する。	権利・義務の概要、権利行使の制限及び物権、債権など財産権の概要について、法規と関連付けて見いだしている(a,b)
6	3節 知的財産権		知的財産権が侵害されたときの対抗手段について扱い、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む。	知的財産権が侵害されたときの対抗手段について具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む(c)
7	第3章 財産権の変動 1節 契約 2節 物の売買 3節 物の貸借 4節 不法行為 5節 時効		契約全般について、また雇用契約、売買契約、不動産賃貸契約など企業活動における契約について、法規と関連付けて理解する。	企業活動に係る契約全般について、また物の売買、賃貸についての企業における事例と関連付けて見いだしている(a,b)
8			契約当事者の不法行為や時効の各関係について、企業活動における具体的な事例を用いて、法規と関係付けて理解する。	企業活動に関する不法行為や時効の課題などを発見し、法的な根拠に基づいて、その課題への対応策を考案し、評価・改善している(b) 事例を用いて、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる(c)
9				
10	第4章 企業活動と法規 1節 企業活動の主体 2節 株式会社の特徴と機関 3節 資金調達と金融取引 4節 組織再編と清算・再建 5節 競争秩序の確保	45	企業活動の主体とその商行為の概要について理解する。 資金の調達や運用と金融取引の現状・課題及び金融に関するセーフティーネットについて学ぶ。	企業活動の主体とその商行為の概要について理解できる(a) 資金の調達や運用と金融取引の現状・課題及び金融に関するセーフティーネットについて学び、具体的な事例を用いて、法規と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組んでいる。(b,c)
11	第5章 企業責任と法規 1節 法令遵守と説明責任 2節 労働者の保護 3節 消費者の保護 4節 情報の保護		法令遵守（コンプライアンス）と説明責任（アカウンタビリティ）の意義と重要性について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組む	法令遵守（コンプライアンス）と説明責任（アカウンタビリティ）の意義と重要性について学び、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動に取り組んでいる(b,c)

12	<p>第6章 紛争の解決と予防</p> <p>1節 紛争の解決</p> <p>2節 紛争の予防</p> <p>第7章 税と法規</p> <p>1節 税の種類と法人の納税義務</p> <p>2節 法人税の申告と納付</p> <p>3節 消費税の申告と納付</p>	30	<p>国際的な紛争は国による法制度の違いが一因になっていることについて理解する。</p> <p>国税、地方税、直接税、間接税など税の種類と分類、法人税、法人住民税など法人に対する税の概要について理解する。</p> <p>申告と納付の仕組み及び申告書の作成など手続の概要について、法規と関連付けて理解する。</p> <p>国際的な紛争は国による法制度の違いが一因になっていることについて理解している(a,b)</p> <p>国税、地方税、直接税、間接税など税の種類と分類、法人税、法人住民税など法人に対する税の概要について理解している(a)</p> <p>企業における税の申告と納税に関する課題を発見し、それを踏まえ、法的な根拠に基づいて、税に関する責任を果たす方策を考察して実施し、評価・改善している(b,c)</p>
----	--	----	---

科 目	総合実践	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年商業科
使用教科書	なし				
補助教材等	本校独自の教材を使用				

1 学習の到達目標

1・2年時に学習してきた知識や技術が実際のビジネス活動の中でどのように関連しているのかを、実務に近い形で学習し、ビジネスに関するいろいろな科目との関連を総合的に体験する

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

ガイダンスを通じ授業の概略を説明します。具体的には、ビジネスマナー・模擬会社の設立から取引を一斉に行います。実際の帳票作成から月次決算による財務諸表作成や経営分析までを行います。同じ会社内での協力の大切さやコミュニケーションについて学んでほしいです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの意義や役割を理解している。	ビジネスの諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうするとともに、実践的な態度を身につけている。 毎時の取引を積極的に行い、仲間と協力し合う姿が見られる。
主な評価方法	試験による評価、学期ごとには帳簿の提出により取り組みを評価する。	意見交換を行う態度等により主体性や技能を評価する。	授業ごとに取り組み日誌を提出させる。学期ごとの帳簿の提出により、作業の正確さや丁寧さを確認する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	ガイダンス マナー研修		授業の概略説明 ビジネスマナーの講習	試験による評価
5	企業研究への取り組みとプロゼンテーション	20		帳票・帳票の作成
6	模擬会社の設立 模擬会社による一斉取引		会社設立、開業準備 一斉取引、書類作成、記帳処理	
7				
8				
9	模擬会社による取引	30	自由取引、書類作成、記帳処理<総合教育センターでの実習>	毎時の取り組みの振り返りを記録日誌で確認 学期ごとの帳簿提出により正確にできているか確認
10				
11				
12				
1	模擬会社による決算	20	月末整理 帳簿の締め切り 月次決算 財務諸表の作成 営業報告書の作成	まとめとなる決算整理が性格丁寧に行えるか。 仲間と最後まであきらめずに作業できるか。 提出物が完全にそろっているか。誠実に取り組めたか。
2				

科 目	課題研究	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3年商業科
使用教科書	なし				
補助教材等					

1 学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ地域経済の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり身につけることを目標とする。

- (1) 商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

「やっちゃん赤穂！」とは失敗を恐れず「まずやってみよう！」という意味。考えをまとめ実際に動く（活動する）ことが重要。土日祝祭日に活動することもあるので注意。地域の皆様に喜ばれる活動をしよう！

3 学習評価

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。 商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	ビジネスの諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうするとともに、実践的な態度を身に付けている。
主な評価方法	ワークシートや研究日誌の内容から1・2年次の知識定着を確認するとともに、自分から新たに学び取った知識の確認。	研究日誌、活動計画書、活動報告書、プレゼンテーションなどで評価。	日頃の授業への取組状況、出席状況、諸行事への出席状況、グループワークでの主体性、積極性を評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点： (a) 知識・技術、 (b) 思考・判断・表現、 (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	地域理解と企画 ～商店見学～		・ 5講座に分かれて地域について調べ、細かいところを深めます	・ ビジネス基礎やマーケティングの知識が汗かかれていく

5	a 商業開拓 b プライダル c 観光ビジネス d 映像・発信 e プログラミング	30	・地域の魅力を発掘する ・発表	・ノットは既に何をやっているか。 (a) ・テーマに向けて新しい知識を得ようとしている。 (a) ・グループワークで発言ができる (b) ・前向きなグループワークができている (c)
6				
7	商品開発		・各講座ごと商品・サービス開発の検討 ・外部講師や地域の方との連携 ・地域でのフィールドワーク ・S T P分析 ・4 P政策の実施 ・商品・サービスの完成	・マーケティングの知識が活用できている。 (a) ・ビジネス法規の知識、特に知的財産権の知識が活かされている。 (a) ・フィールドワークで積極的に地域の発見をしようとしている。 (b) ・プロトタイプの作成やテストマーケティングなど科学的見地に基づいて商品開発をしようとしている。 (c) ・研究日誌やワークシートに創造的な記入が行われている。 (c)
8				
9				
10		45		
11				
12	発表まとめ	30	・活動の成果をまとめ、発表する ・課題研究発表会の実施 ・研究成果をまとめたレポートの作成。	・各班で協力して発表準備ができている。 (b) ・論理的なプレゼン資料ができる。 (b) ・効果的な視覚情報、聞き取りやすい話し方による説得力のあるプレゼンができているか。 (c) ・研究を整理し、レポートがまとめられている。 (c)
1				
2				